

25

719₁



始



25
719

千葉縣產業要覽



千葉縣產業要覽目次

農 業

米 〓 麥 〓 豆菽類 〓 落花生 〓 雜穀類 〓 蔬菜中の 莖果類 〓 其他の 蔬菜類 〓 甘藷 〓 蘿蔔 〓 青芋 〓 葱 〓
 馬鈴薯 〓 果物類 〓 梨 〓 柿 〓 柑橘 〓 枇杷 〓 桃 〓 縣立農事試驗場 〓 銚子測候所 〓 千葉縣米穀検査所
 〓 千葉縣農會 〓 產業組合 〓

耕地整理

工事施行方法 〓 排水其他の 利用 〓 整理工事費額 〓 重なる 整理地區 〓 整理成績 〓

蠶 絲

桑園 〓 養蠶 〓 蠶種 〓 蠶絲業の 生産 〓 農事講習所 〓 蠶業取締所 〓 原蠶種製造所 〓 蠶種同業組合 〓
 蠶絲業團體 〓

林 業

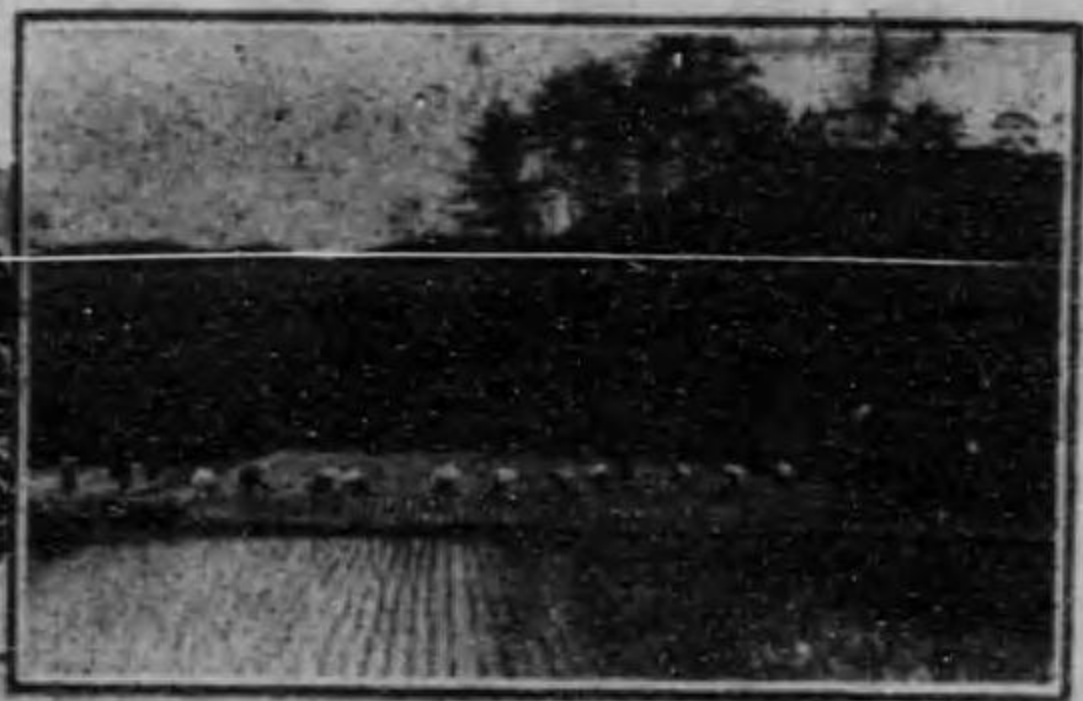
森林植物 〓 森林產物 〓 御料林野 〓 國有林野 〓 公有林野 〓 社寺有林野 〓 私有林野 〓 保安林 〓 縣基
 本林 〓 縣模範林 〓 造林補助 〓 林業講習 〓 森林組合 〓

大正
 3. 10. 24
 内交

當り農家戸數は現住戸數の約七割に當り、一戸の耕作面積は約一町一反三畝步にして、其の農産物は米麥、豆菽、雜穀、蔬菜、果物、特用農産物の各種類にして、其の現況を敍すれば左の如し。

米 米の生産總額は、最近の調査に依れば金三千九百六十二萬三千九百九十七圓にして、本縣に於ける農産物中第一位を占め、之に比肩するものなし。作付反別は十一萬二千六百七十町步にして、全國中第四位に在り。其の收穫は二百萬三千六百七十八石を算し、縣外に輸出するものは毎年少なくとも五十萬石を下らず。全國中第五位に在り、故に其の産額の多少と品質の良否とは直ちに縣下一般經濟界に至大の關係を有するに依り、本縣は米作の改良、及び産額の増加に最も力を注ぎ、先づ耕地整理を促し、病虫害の驅除豫防に努め、肥料の配合を合理的ならしめ、併せて其の取締法を嚴にし、更に縣農會をして、稻作三要項、即ち正條植、鹽水選、短冊苗代及び農具の改良、并に暗渠排水牛馬耕等を奨勵せしめ、着々効果を擧げしも、其の種類雜駁にして品質優良ならず、随つて市場の聲價を高むること能はざるに依り、明治四十一年米作改良の根本事業として、種類統一の計畫を立て、四十二年より着手し、各郡に原種試驗地を設け、種類の試験を行ひたるに、其の結果は農商務省西ヶ原農事試驗場に於ける試験の結果と、略一致せるを見たり。爾來品質及び收量の如何を斟酌し、早生種は信州、信州金子、中生種は大和錦、關取、愛國、近江、晚生種は神戸、竹成、~~張~~、蟹目等を本縣に最も好適するものなりと認め、更に四十四年より各郡に採種田を設け、原種を耕作し之より得たる種子を、

正條植



馬耕講習



小學校兒童の害虫驅除



各農業者に配布の上栽培せしめ、同年より向ふ五箇年の後には、全縣下に亙り、悉く改良統一の目的を完成すべく計畫せり。此の事業の着手に就き最も特筆すべきは、明治四十三年八月稀有の水害に際し、罹災民救恤の御思召を以て、下附あらせられたる恩賜金の用途是れなり。本縣にては、聖旨を奉戴し、不幸の民衆をして普ねく天恩に浴し、永く感謝の意を表せしめんが爲め、慎重に熟慮講究したる結果、一面焦眉の急を救ふと同時に、一面産業發展の資に充つべき物質的の事業に向ひ、之を支出するを最善の策なりと認め、乃ち縣の計畫せる米の改良統一を、恩賜記念の事業とし、恩賜金を之に用ふるに共に、民間有志の罹災民に對する同情の義捐金をも、之に併せて、品質優良の種粃約二千六百石を、又罹災救助基金に依り、救助を受くべき罹災者に對しては、同様の目的を以て、種粃約二千五百石合計六千六百餘石を購入し、

之を配布せり。而して大正二年より、更に米穀検査を実施して、品質の改良に努め、今や着々歩を進め好成绩を挙げつゝあり。元來本縣の耕地は平坦にして、水田は卑濕地多く、又用水を天水に仰ぐもの少なからざるを以て、自然排水の設備に缺くる所あり。随つて一毛作地大部分を占むれども、近年栽培上技術改良の結果、關東に於ける優等品を産出するに至れり。其の産額は、時に天候の不良其の他の關係に依り、豊凶を免れざるも、年々收穫増加の傾向を見る。試みに左に既往十年間に於ける作付反別、數量及び價額を掲げん。

年次	作付反別	數量	價額
明治三十六年	一〇四、五五 _町 、八 _反	一、六三五、九四九 _石	一八、三八二、三八四 _圓
同 三十七年	一〇四、〇三六、〇	一、七四一、六七五	二〇、七三七、五三二
同 三十八年	一〇五、七六九、九	一、五一四、三六四	二〇、八四〇、五五三
同 三十九年	一〇五、二一七、三	一、四一二、九三八	二〇、五八二、〇〇八
同 四十年	一〇七、〇七九、二	一、六七七、一二八	二六、〇五七、五六九
同 四十一年	一〇八、五四五、二	一、七〇五、三九〇	二二、七二七、〇三八
同 四十二年	一〇九、〇四五、五	一、八四七、七〇七	一九、六三一、八二五
同 四十三年	一〇九、六九三、六	一、三四九、四九八	一八、八三〇、九八二

同 四十四年	一一〇、九八二、一	二、〇三一、三七三	三二、三三五、八四七
大正元年	一一二、六七五、七	二、〇〇三、六七八	三九、六二〇、三九七

以上四十三年は最凶、四十四年は最豊なるを以て、兩年を除き、三十九年より大正元年に至る七箇年間に於ける收穫高を見れば、平年作は百七十二萬九千三百六十三石なるを知るべし。

麥は農産物中、米に亞ぐ主要なるものにして、現在作付反別は五萬七千五百九十八町二反歩、收穫高は百萬四千七百三十三石なり。又其の總價額は七百一十一萬九千五百圓に達し、縣外に輸出せらるゝもの、年々十萬を超ゆ。然れども其の品質は、未だ全く優良ならず。明治三十八年以來、縣は縣農會に對し、米と同じく縣費を補助し、種子の鹽水選、麥の豫防、燒麥廢止、乾燥位の改良を勵行せしむると同時に、良種を配布し、且二毛作を獎勵したるのみならず、更に進みて之が改良統一を圖らんが爲め、四十二年七種の良種子を選び、各郡に原種試驗場を設け、又技術員を各郡に派遣して、改良事項を督勵せしむる等、専ら收穫の増加と、品質の改良とに力を盡せり。之より先き數年來麥酒用大麥ゴールデンメロンの栽培を獎勵し、今や千葉、印旛、山武、東葛飾、君津、長生、匝瑳の各郡に及ぼし、毎年大日本麥酒株式會社、又は陸軍糧秣廠に販賣し、其の價額數萬圓に達する等、漸次改良の成績を收むるに至れり。而して縣は更に大に麥作を獎勵し、其の産額を増加すると共に、品質を改良する所あらんとし、専ら縣農會をして、之に力を盡さしめつゝあり。既往十年間に於ける麥の作付

反別、數量及び價額を掲ぐれば左の如し。

年次	作付反別	數量	價額
明治三十六年	五八、五八五、七 _反	五九七、七七 _石	三、一四五、二一四 _円
同 三十七年	五九、四九三、四	八〇四、八三六	四、八一四、七一七
同 三十八年	五七、一〇八、四	六六三、〇七七	四、一四三、六九二
同 三十九年	五七、九一九、四	七七九、四八三	三、六七七、〇〇九
同 四十年	五八、二五八、〇	八一七、三〇七	四、二八一、四〇六
同 四十一年	五八、二二四、八	七六一、二七五	四、四四〇、一三六

豆菽類 豆菽類は大豆、小豆、豌豆、蠶豆、落花生、菜豆、大角豆にして、作付反別は二萬六千三百六十七反歩、收穫高は三十四萬四千七百七十二石、價額は二百七十七萬六千三百七十一圓なり。生産價額最も多きは、大豆の百五十四萬五千三十二圓にして、落花生の六十八萬八千四百五十九圓蠶豆の十八萬四千六百三十八圓之に亞ぐ。而して大豆は印旛東葛飾兩郡の産出最も多く、君津、香取長生、夷隅、山武の各郡之に亞ぎ、其の他の各郡も、今や耕作方法著るしく改善せられ、漸次品質優良と爲るに至れり。本縣農産物中の特産たる落花生に就き記する所あるべし。

落花生 落花生は作付反別四千七百四十九町五反歩、收穫高十五萬五千三百六十二石、其の價額は

六十八萬二千四百五十九圓にして、印旛郡の生産最も多く、二十萬二千十一圓を第一とし、山武郡の十四萬六千七百三十九圓、匝瑳郡の九萬三千七百七十圓、香取郡の五萬五千五十二圓、順次之に亞ぐ。而して之を明治四十一年に比すれば、作付反別に於て二千七百町歩を生産價額に於て三十七萬七千二百九十圓を増加せり。僅々數年を出

落花生紀念碑



落花生紀念碑

でずして、倍額以上の増加を見たるは、幾多農産物中、獨り落花生あるのみ。元來落花生は、明治九年、山武郡南郷村の人牧野某が神奈川縣三浦郡より種子を購入して、移植したるに始まれりと傳へらる。翌十年縣は斯業の有望なるを認め、更に鹿兒

島より種子を取寄せて栽培を奨勵し、之が増殖を圖ると同時に、品質の改良、及び販路の擴張に力を盡すに至れり。翌十一年匝瑳郡共和村の人金谷某は縣より種子の交付を得て栽培するや、頻りに之を四隣に誘ひ、漸次栽培區域を廣め、匝瑳、海上、香取の三郡に互り、年々栽培するもの夥しく増加し、

地方人民は之が爲め利益せること少なからざりしを以て、明治十七年有志者相謀り、落花生の碑を同人の居村たる共和村八幡神社境内に建て、永く同人の功德を表彰せり。爾來其の栽培區域は年と共に擴張し、印旛郡の如きは、今や縣下第一の主産地として、嶄然頭角を現はすに至れり。當業者は之より先き、販路を東北地方に擴張せるのみならず、二十三年清國に輸出せるより、英米其他各國にも輸出せられ、本縣農産中海外輸出品として、最も主要なる物産と爲り、前途頗る有望なりとす。三十九年同業者は同業組合法に依りて組合を設け、専ら品質の改良、販路の擴張、及び生産販賣の方法を改善すべく計畫し、縣に於ても斯業の有望にして有利なるを認め、一層之が改良發達を圖るべく努力しつゝあり。

雜穀類 雜穀類は、粟、稗、黍、蕎麥、蜀黍、玉蜀黍、胡麻等にして、作付反別は九千五百三十一町六反歩、收穫高十一萬五千六十二石、其の價額七十九萬八千四百八十四圓なり。生産額最も多きは、粟の三十四萬五千七百三圓にして、玉蜀黍の十九萬五千七百九十九圓、蕎麥の十萬九千四百六十一圓、黍の七萬三千四百四十四圓之に亞ぐ。而して粟は安房君津東葛飾の各郡に於て生産するもの多く、玉蜀黍は印旛郡より産出するもの夥しく、爾餘の各郡は相合するも其の三分の一を出でず。蕎麥は東葛飾郡の産出多く、山武郡之に亞ぐ。又黍は是亦山武郡の産出を以て最も多しとす。

蔬菜類中の蔬果類 蔬果類は南瓜、冬瓜、西瓜、胡瓜、白瓜、越瓜、甜瓜、茄子、蕃茄、蕃菽等に

して、作付反別は二千三百二十八町一反歩、收穫高は千二十一萬六千四百三十四貫、其の價額九十四萬三千九百一圓なり。而して茄子の三十一萬七千九百一圓を第一とし、南瓜の十九萬七千四十七圓、胡瓜の十四萬八千八十二圓之に亞ぐ。茄子及び胡瓜は東葛飾、印旛、香取、君津、長生の各郡に於て栽培するもの夥しく、殊に君津郡富津町に於ける茄子、南瓜、西瓜の如き、品質最も優良にして早物を産出し、京濱人士の賞味する所と爲り、又安房郡北條町、平群村及び神戸村の茄子、胡瓜は促成栽培を以て、夙に其の名高し。

其の他の蔬菜類 蔬菜類は獨活、薯蕷、蓮藕、慈姑、生百合、薤、葱、玉葱、蕪菁、甘藍、甘藷、馬鈴薯、青芋、蒟蒻、蘿蔔、胡蘿蔔、牛蒡、筍、生薑、萵苣、漬菜、小松菜、野蜀葵、芹等にして、作付反別二萬二千四百五十四町二反歩、收穫高八千七百六十七萬四千七百八十四貫、其價格五百三十九萬三千六百三圓なり。之を明治四十一年に比すれば、作付反別に於て三千三百三十二町五反歩を價額に於て二百三十五萬三千三百八十九圓を増加し、將來倍々増加せんとするもの如し。是れ全く本縣が氣候風土共に、能く各種蔬菜の栽培に適するを以て、古來蔬菜を栽培する地方甚だ多く、殊に近年陸海運輸の便開けしのみならず、京濱地方が非常に發達し、著るしく其の需用を増加したるに外ならず。而して縣下に於て、最も豊富なる産地は、千葉東葛飾の二郡にして、産額は年々少くも百五十萬圓内外とす。殊に千葉郡の甘藷及び馬鈴薯は、品質優良にして産額頗る多く、他郡に秀で、東葛飾郡は

蘿蔔、葱、野蜀葵及び牛蒡の産額最も多くして、縣下に匹敵するものなく、就中松戸、八柱、國分の



木更津町附近蓮田

縣下第一の主産地なり。安房郡は北條、館野、八東、瀧田の各町村を中心として、産出する葱、玉葱

各村に於ける産物は、品質甚だ優良にして、常に東京市場へ輸出し、頗る聲價を博せり。昨今同地方に西洋蔬菜を栽培するもの少なからず。印旛郡は八街村の開墾地を主とし、其の他郡内に産出する甘薯、馬鈴薯、牛蒡、青芋、薯蕷、獨活、百合根、瓜類及び筍は何れも産額多く、匝瑳郡は牛蒡、葱等甚だ著名にして産額少なからず。殊に同郡に於ける大浦牛蒡の如き、栽培區域は一局部なるも、古來其の名高し。長生郡は葱、獨活等最も多く栽培され、主産地は茂原、一宮、東郷の二町一村とす。夷隅郡は總野、車海兩村に於ける葱、蘿蔔、胡蘿蔔、薑、菜類を著名とし、牛蒡の如き同郡の産額を縣下第一とす。君津郡は清川、嚴根兩村の葱、蓮藕は、東京市場に聲價あり。蓮藕の栽培反別は四十七町歩、價額二萬七千餘圓に達し、

甘藍、花椰菜、蘿蔔、甘藷、薑等は、産額多くして、京濱地方に輸出するもの少なからず。之を要するに縣下に於ける各種蔬菜の栽培は頗る有望有利なるを以て、縣に於ても學校又は講習所を設けて指導獎勵に努め、尋で品評會或は共進會を開きて當業者を激勵し、當業者亦甚だ熱心なるより、近年著るしく良品を産出し、倍々市場の聲價を博するに至れり。各種蔬菜中生産最も多きものに就きて記する所あるべし。

甘藷 甘藷は本縣の特産にして、蔬菜類中産額最も多し。千葉、東葛飾の二郡は主産地にして品質甚だ優良なり。作付反別は縣下を通じ、一萬四千三百五十四町六反歩にして、生産價額は實に三百二十一萬四千七百十圓を算す。概ね京濱地方及び東北地方并に北海道に販出せられ、且千葉縣にては之を材料として盛に澱粉を製造す。本縣に於ける甘藷の由來は、久しき以前に在り。之が起源は詳かに之を知るを得ずと雖も、傳ふる所に依れば、江戸の人昆陽青木文藏は、蕃薯考と題する書冊を編述して、甘藷獎勵の必要を説き、幕府に建議するや、大岡忠相の容るゝ所と爲り、甘藷の試作を命ぜらる。是に於て昆陽は、之を江戸小石川藥園及び養生所に栽培すると共に、其の種子を本縣に携へ來り、忠相の採領地たりし下總馬加村（千葉郡幕張町馬加）、及び上總不動堂村（山武郡豐海村）に移殖せり。是れ享保二年の事にして、本縣に甘藷の栽培せられたる最初なりとす。而して昆陽は自ら栽培の術を指導し、之が普及を獎勵したるに、地方人民も漸次栽培するに至りしが、天明年間の飢饉に際し、

一層廣く之を栽培したる以來、年々増加し今日に及べり。昆陽は我邦蘭學中興の祖にして、夙に産業を貴び經濟を重んじ、躬行實踐是れ事とせり。昆陽の歿後、馬加の村民深く其の恩を記し、徳を頌せん爲め、祠を建て靈を祀り、芋神と崇め、弘化年中、更に神社を設け、毎年祭典を行ひしが、慶應年中社殿全く朽廢し、其の跡は見るべからざるを以て、本縣有志者は大に之を慨し、昆陽神社を再建すべく發起し、明治四十三年昆陽神社保存會を組織し、四方に檄を飛ばして寄附金を募集せり。之より先

青木昆陽先生の碑



甘藷の荷造

き昆陽の事業は、天聽に達し、四十年其の功勞を追賞して正

四位を賜はられたり。聖恩枯骨に及び、之に感激せざるものなし。

蘿蔔 蘿蔔は甘藷に亞ぎ、最も多き生産額を有し、作付反別は二千二百九十町八反歩にして、生産額は五十八萬三千百十七圓なり。縣下各郡中、東葛飾郡に於ける生産最も多く、年々少なくとも十三

萬二千餘圓を産出し、君津郡の八萬八千二百四十九圓、山武郡の五萬四千六十九圓、印旛郡の五萬二千百八十三圓等順次之に亞ぐ。而して東葛飾郡に於ては、専ら之を切干として製造し、京濱地方其の他へ輸出するもの甚だ多く、且頻りに好評を博す。

青芋 青芋は作付反別七千八百九十九町九反二畝歩、生産價額五十二萬三千七百七十八圓にして縣下各郡中、東葛飾郡最も多くして、十萬四千六百五十六圓を算し、印旛郡の九萬四百五十二圓、千葉郡の八萬五千九百九十九圓之に亞ぐ。本縣より東京に輸出するもの漸次増加し、倍々聲價を博しつゝあり。葱 葱は作付反別五百六十二町九反歩、生産價額二十二萬二千四百四十六圓にして、産出最も多きは、東葛飾郡の八萬八千九百四十五圓を第一とし、君津郡の二萬三千三百四十四圓及び印旛郡の二萬二千九百圓之に亞ぐ。

馬鈴薯 馬鈴薯は作付反別八百一十一町九反歩、生産價額十四萬六千八百五十一圓にして、之を前年に比すれば退歩の狀なきにあらず。産額最も多きは、印旛郡の四萬二千七百七十二圓を第一とす。千葉郡の二萬二千六十五圓、市原郡の一萬六千六百四十五圓之に亞ぐ。栽培の舊き地方は東葛飾郡船橋町附近及び千葉郡千葉町にして、其の起源は詳かならざるも、千葉町に在りては、今より約二十餘年前、種薯を横濱より購入して之を栽培せるに由來す。

果物類 果物類は梅、栗、銀杏、桃、苹果、日本梨、西洋梨、柿、枇杷、葡萄、密柑、ネーブルオ

レンジ、夏橙、及び各種柑橘、李、杏、無花果、柘榴等なり。元來本縣は氣候風土共に、果樹の栽培に適するを以て、昔時より各地に行はれ、而して京濱に接近し交通頗る便利なるのみならず、近時生活趣味の向上と、一般嗜好の増加とに依り、之が需用を増加し、随つて利益少なからざるに依り、栽培區域の如き漸次擴大せり。最近の調査に依れば、作付反別千九百八十一町七反歩にして、生産價額五十九萬九千七百三十五圓に達す。而して各種中柿、柑橘、梅、栗、枇杷、桃等は、其の主要なるものなりと雖も、栽培法未だ進歩せず、品質亦劣惡を免れず。是に於て明治二十九年以來、縣は縣農會をして園藝技術員を置き、講習講話に實地指導に、専ら當業者の知識啓發に努めしめ、更に四十二年に至り、園藝試験場を東葛飾郡中山村に設け、果樹蔬菜に關する試験を行ひ、技術員をして之を研究せしむる傍ら、當業者の知識を開發し、果樹及び蔬菜栽培の改良獎勵に盡力せるより、漸次優良の成績を擧ぐるに至れり。其の主要なるものに就き記する所あるべし。

梨 梨の作付反別は三百三十町三反歩、生産價額は十五萬六千五百三十二圓にして、東葛飾郡の産額最も多く、安房、市原、山武の各郡順次之に亞ぐ。東葛飾郡に於ける梨樹栽培の起源は、今より約二百年前、八幡町川上某が、諸國遊歷の途次、美濃國に至り、梨樹を栽植せるを見るに及び、接穂を得て持ち歸り、之を嫁接したる後、三年にして結實せるより、試みに江戸に送り之を嚮かしめたるに意外に高價に賣れしを以て、苗木を近隣に配布して、増植せしめたりと傳へらる。爾後天保弘化年間最も

盛況を呈し、遂に八幡梨の名聲を博するに至れり。是に於て同地方に栽植するもの増加し、中山、八幡、市川、國分、大柏、八柱の各町村の如き、主産地と爲り、其の産額著るしく増加せるのみならず、品質優良なるを以て、好評甚だ高し。又近時安房郡にては洋梨を栽植するもの少なからず。

柿 柿は古來縣下各地に栽植せられ、今や作付反別四百十五町六反歩、生産價額九萬三千六百五十五圓なり。生産額最も多きは印旛郡にして、君津、長生、山武の各郡之に亞ぐ。概ね宅地内の空地又は原野に點在し、一定の地を區劃して栽植せるもの、如きは、甚だ稀なり。種類は御所、鶴子、蜂屋、核無、釣鐘、衣紋、百目、禪寺丸等あるも、産額多きは衣紋にして、總て繭柿として四斗樽に詰め、之を京濱に販出し、頗る名聲を博せり。又夷隅郡老川村地方の如き、運搬上不便なる地方にては串柿に製造し、之を他の地方へ搬出して販賣す。

柑橘 柑橘は作付反別三百九十九町二反歩、生産價額十二萬三千三百二十圓にして、安房郡の産出最も多く、山武、君津、市原、長生の各郡之に亞ぐ。本縣の柑橘は樹齡の老いたるものあるより察すれば、今より約三百年前に栽植せるもの、如し。而して最も古きは、山武郡東金町に在り。昔し徳川家康が、東金城主をして其の附近に栽植せしめられし以來、東金町を中心とし、漸次縣下各地に傳播すと傳へらる。當時種類は橘、柑子、紀州密柑等にして、毎戸僅かに數樹を居室の一隅に、點植せるに過ぎざりしが、明治初年頃より各地共に之を栽植するに注意し、三十年頃より一層増加し今日に及

べり。主産地は山武郡増穂村、長生郡高根本郷村及び八積村、夷隅郡中根村、市原郡東海村、君津郡巖根村及び吉野村、安房郡平群村及び大山村等にして、其の種類の重なるものは柑子、紀州密柑、温州密柑、天狗密柑、旭柑、香橙、鳴門密柑、夏橙、ワシントンネリオル其他なり。柑子種は最も古く栽植せられ、一時上總の白輪柑子として名聲を博せり。紀州密柑は柑子に續きて栽植せられたれども、近來需用減少し稍衰微せり。温州密柑は現今各地に於て、多く栽植せらるゝ種類にして、年々植樹せるもの二萬本を下らず。ワシントンネリブル種は、三十一年、當業者が苗木を和歌山縣より取寄せ、山武郡正氣村、君津郡檜葉村及び吉野村、市原郡東海村等に於て、多く栽植せられ、夏橙は君津郡地方に於て、稍盛に行はれつゝあり。

枇杷 枇杷は作付反別百二十八町八反歩、生産價格三萬六千三百三十七圓なり。産額最も多きは安房郡にして、夷隅香取の二郡之に亞ぐ。而して最も著名なるは安房郡富浦村にして、今より百五十年前に栽植したれども、其の果實を東京に搬出して販賣するに至りしは、凡そ七八十年前なり。然るに明治年代に及び、漸次栽植するもの多く、三十四年頃には産額著しく増加し、随つて枇杷利用の道を講じたる結果枇杷酒を醸造するものあるに至り、三十六年南無谷の西端に醸造場を設け、今や全國に比類なき枇杷酒を販出するに至れり。

桃 桃は作付百六十一反歩、生産價格三萬四百九十二圓なり。産額最も多きは東葛飾郡にして、安

房、長生、印旛の三郡之に亞ぐ。桃樹の栽植最も古きは、東葛飾郡七福村、匝瑳郡共和村等にして、七福村は今より約二百餘年前、同村岩名にて毎戸數樹を宅地内の一隅に點植せり。當時松戸町の商人來りて、之を東京に販出したるに、比較的高價に賣却し得たるより、村民之を聞知するや、適當なる農家の副業として、之を栽植するに至れり。爾來野田町及び川間村に傳播し、明治初年頃には、畑地にして桃樹の栽植を見ざる處なき盛況を呈し、東京市場に於て、岩名桃の名聲を博せり。然るに同地方に於て、栽植せる種類は概ね在來種あるを以て、外國輸入の優良種の爲め壓倒せられ一時衰運に赴きしが、更に時運の進歩に伴ひ、需用倍々増加し、近年同郡中山、八幡、市川の各町其他にても、良種の栽植に注意し、大に之を改良するを得たり。其の種類の重なるは、半兵衛、日の丸、金時、アムスデンジュン、アーリー、リバー、天津水蜜桃、上海水蜜桃等にして、就中現時最も盛に栽植せらるゝは、天津水蜜桃、アムスデンジュン、アーリー、リバー、上海水蜜桃等なりとす。

特用農産物 特用農産物の種類は甘蔗、葉藍、葉煙草、蘭(備後蘭)、莫苡(七島蘭)花百合、絲瓜杞柳、菜種、荏胡麻、實棉、大麻、苧麻等にして、合計作付反別は二千九百十二町歩、生産價額六十一萬千七百四十七圓なり。就中生産額最も多きは、葉煙草の二十六萬八千九百八十五圓にして、東葛飾郡野田、七福、川間、木間ヶ瀬、二川、旭、福田、梅郷、新川、田中、十餘三、關宿の各町村に於て、二十四萬九千二百三十三圓、香取郡香取、神里、八都、府馬、小倉、栗源、久賀、香西、大須賀、本

大須賀の各町村に於て一萬七千十二圓の生産價額あり。更に東葛飾、香取の二郡に於ける前記以外の町村に於ても栽培しつゝあり。農家の副業として最も有利有望なり。

肥料 海上郡銚子町より九十九里濱及び夷隅郡海岸を経て、安房郡鴨川町地方に至る太平洋沿岸は乾鰯并に鰯搾粕の産地として、古來其名甚だ高し。之が産額は鰯漁の豊凶に依りて一定せざるも、年々少くも百萬圓を下らず。且菜種油粕及び落花生油粕の産出も少なからず。而して近年農業の進歩と農家に於ける經濟の狀態とは、肥料に對する需用種類に變遷を來し、魚肥、油粕類は、今や縣下肥料界の主腦たらずして、却て輸入大豆油粕を以て第一とする實況なり。魚肥過燐酸肥料の如きは第二位に在り。米糠及び各種調合の肥料類之に亞ぐ。昨今縣下に於ける肥料にして、關東關西の幾多人造肥料會社の製造に係る各種人造肥料、其の他一般肥料の種類を算すれば、實に三百餘種の多きに達し、之が需用總額は約二百五十餘萬圓とす。而して其の需用は、年と共に倍々増加するもの、如し。

縣立農事試驗場 明治四十二年縣立農事試驗場を、東葛飾郡中山村に設置せしが、大正二年三月行政整理の爲め、該試驗場の園藝部を、東京村井吉兵衛に賣却せり。同人は之を村井園藝場と名づけ夫々技藝員を置き、縣が當初立案せる方針を踏襲し、其の目的を遂行するに努む。而して縣は更らに農事試驗場を、縣立千葉高等園藝學校に併置すると同時に、豫て前記中山村に設定したる原種田一町四反歩に對し、特に技術員を置き、原種の育成を爲さしむるのみならず、進みて原種の選定と育成とを

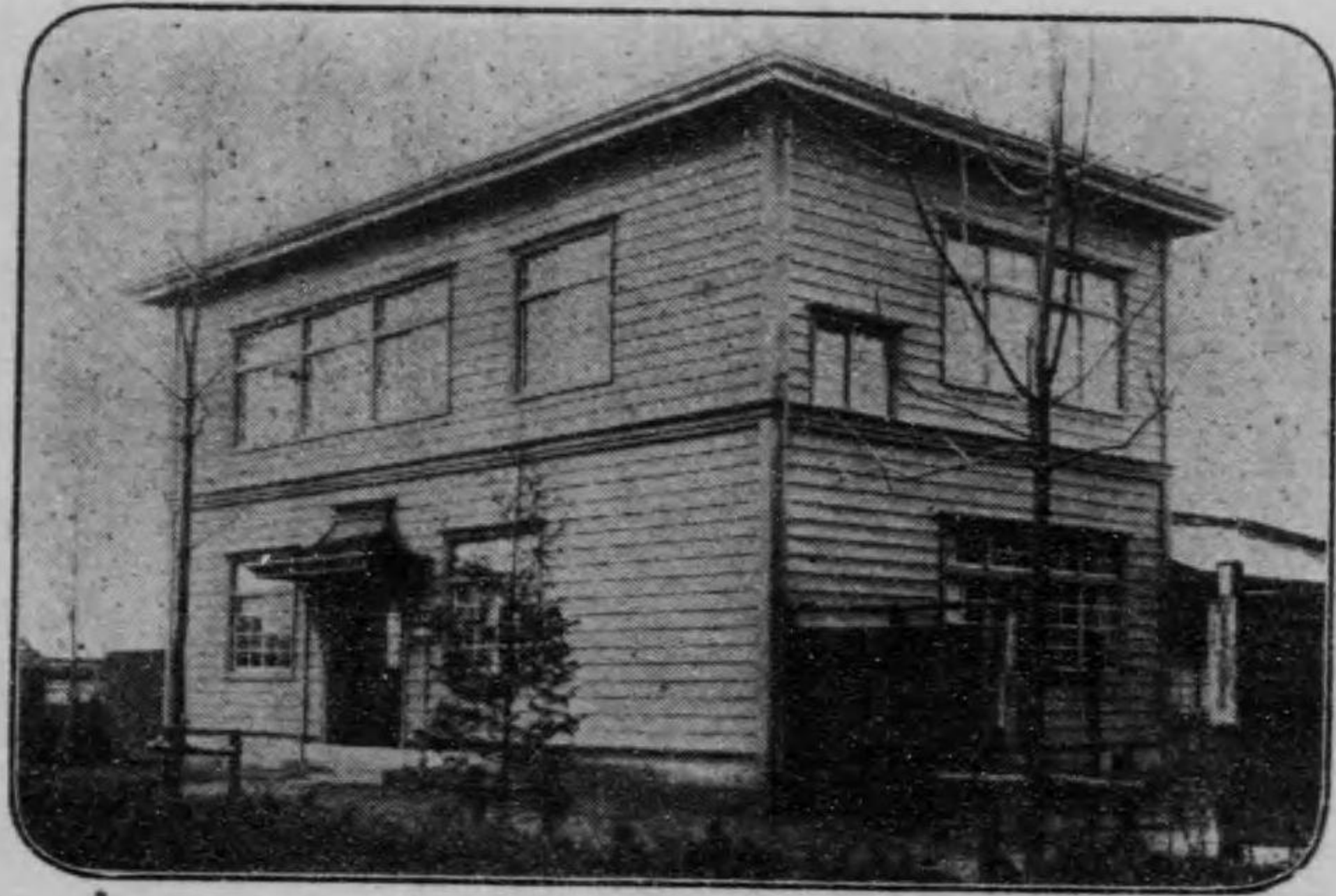
爲さしむ。種類の如きも、成るべく收量の多きものに重きを置き、殊に近時米穀市場に於て聲價ある種類、即ち愛國及び神力の普及に努め、其の他の種類も、亦各地に適當する品種の配置を定めて之を奨励し、着々好成績を挙げつゝあり。

銚子測候所 明治十九年海上郡銚子町の有志者相謀り、銚子汽船株式會社構内に私立測候所を設置せしが、明治二十一年文部省令に據り、之を縣の經營に移せり。定期の氣象觀測は、本所并に安房郡北條町及び夷隅郡勝浦町の出張所に於て毎日六回、其の他四十箇所に設立せる管内觀測所に於ては、毎月一回乃至四回之を施行す。暴風警報信號標は、縣下十三箇所に設置し、風雨の虞ある際は、努めて一般に之を周知せしめ、天氣豫報信號標は、縣下を通じ十四箇所に設け、毎日翌日の天候を豫報し又天變地異の現象と氣候との調査、又は一般産業上に應用すべき氣象中、殊に農作物と氣候との關係并に養蠶期に於ける氣象の調査の如きは、絶えず之を行ひ、風雨若くは霜害等の豫知せらるゝものに對し、之を知らしむるを以て、當業者の便益甚だ多し。

千葉米穀検査所 本縣の米は産額最も多く、年々少くも五十萬石を輸出す。然れども之を需要する京濱地方に於て、聲價常に揚らず、乾燥、調製、俵装并に榊量等甚だ悪しく、他府縣の改良米に比し頗る遜色あり。是に於て縣は産米改良上、幾多の施設經營を行ひ、且指導奨励する所ありしに、著るしく効果を收めたるを以て、更に米穀検査を施行せんとし之が準備に着手し、大正元年通常縣會に

於て、翌二年度より施行すべき旨議決し、同年三月米穀検査規則を發布し、尋で千葉町に本所を、縣

米穀検査所



下各地に支所を、出張所又は派出所を置き、九月一日より検査員をして、具さに之を検査せしめたり。而して今や産米検査の効果忽ち顯はれ、市場に於ける取引の如き、従前に比し價格を昂騰せしむるに至れり。惟ふに農家は、今後一層周到なる注意を以て、米の増収及び改良を圖ると同時に、收穫後の取扱に留意し、専ら乾燥、調製、俵装等の改善に力を致し、倍々精良なる米を産出し、大に其の聲價を揚ぐるに努むべきや必せり。

の町村に居住する農業者及び農事に關係ある者を以て組織し、純然たる系統的團體を構成するに至れ

千葉縣農會 明治二十八年、縣下に於ける農事の改良發達を圖らんが爲め、全郡に亙る郡農會の團體を以て組織せらる。二十九年縣令を以て、農會規則の發布あるや、農會を別ちて縣農會、郡農會、町村農會の三種とし、縣農會は郡農會を以て、郡農會は町村農會を以て、町村農會は其

り。三十三年に及び、法律を以て農會法を制定せられ、三十三年勅令を以て農會令を、同年農商務省令を以て農會補助金交付規則及び農會令施行規則を發布し、三十八年更に農會令其の他の規則を改正せられたるに依り、系統的農會の組織完備し、法律保護の下に於て、一層活動することゝ爲れり。現在農會は縣農會一、郡農會十二、町村農會三百五十五箇所にして創立以來今日に至るまで、施設經營したる事業少なしとせず。其の一斑を記すれば、普通農事に於ては、各地に技術員を派して、農事講習を爲さしめ、就中稲作事項中の三要項たる鹽水選種、短冊苗代、正條植を獎勵し、三十七年より更に共同苗代及び麥作鹽水選種、黑穗豫防の三項目を加へ、又牛馬耕傳習を爲さしめ、三十八年より四十二年まで、水田二毛作の委託試験を續行し、更に水田排水、暗渠排水、穀倉害蟲野鼠及び一般害蟲の驅除、麥酒用の大麥の栽培、選種用鹽の共同購入、種子の交換等を獎勵し、又普通共進會品評會の外、米麥作立毛、俵米、小作米、果實蔬菜、堆肥の品評會を開き、四十三年より俵裝改良の講習會を開き、蠶業に於ては蠶業の講習講話を爲し、又は組合の設立及び桑園の改良に奨め、此の外園藝の栽培、豚家禽の改良發達を圖り、尋で産業組合の設立、報徳主義の鼓吹、馬匹共進會の開設、功勞者の表彰等農民の改善發達に就き、施設する所少なしとせず。而して四十四年より、更に前年より引續ける諸種の改良事業の外、更に大に麥作の改良、豚家禽の獎勵に力を盡し、着々面目を一新しつゝあり。同會は之より先き、三十六年第五回内國博覽會に、農會事蹟書を出品して一等賞牌を得、三十七年米

國聖路易萬國博覽會に米及び落花生を出品して金牌を受領し、四十三年日英博覽會に米、大豆、小豆、落花生を出品して名譽賞を得たり。又同會の經費は、明治三十八年度迄は四千圓内外なりしが、大正元年に至り豫算額一萬六千五百十五圓に達せり。

産業組合 本縣は縣下に於ける産業及び其の經濟の發達を圖るが爲め、産業組合を設立する必要を認め、講習會又は講話を各地に開きて鼓吹し、且縣農會に産業組合に關する専門の主任者を採用し、之が獎勵に努むる所あり。其の結果、明治三十四年君津郡吉野村有限責任吉野信用組合の設立を嚆矢とし、漸次各地に起り、今や三百三十二組合の設立を見るに至れり。之を郡別とすれば君津、香取兩郡の各々五十三組合を第一とし、市原郡の三十八、印旛郡の三十五、海上郡の二十四、山武郡の二十二、安房郡の二十、匝瑳郡の十八、長生郡の十六、東葛飾郡の十五、夷隅郡の十五、千葉郡の十三組合之に亞ぐ。而して孰れも良好の成績を收め、産業の發達と風紀の改善とを圖り、經濟及び風教上裨益する所大に見るべきものあり。尙ほ爾餘の各地に於て倍々之を設立せんとし、計畫中に屬するもの少なからず。

耕地整理

本縣の耕地整理は、明治三十二年七月縣農會が、縣下に於て耕地整理の必要を認め、模範耕地整理補助規程を設け、各郡に一箇所の模範整理を獎勵し、補助金を支出したるを濫觴とす。爾來縣農會は、静岡縣中遠農會より、斯業に精通する實驗家を聘し、各郡に互りて獎勵的講習會を開き、三十三年より更に縣農會に技術者を置き、且農商務省設計調査囑託員を聘し、各郡指定地に向ひ、調査設計に従事せしめ、尋で耕地整理工藝補助規則を設け、同時に三年繼續として、年々五千餘圓を支出し、之を補助することゝしたり。是に於て整理事業の基礎鞏固と爲り、三十八年には耕地整理期成會を各地に組織せられ、専ら土地の管理及び作業の方法を講じ、之が實行を期せり。之より先き、縣は從來の補助規程を改正し、三十七年より補助金を増加し、更に五箇年繼續を以て、年々八千圓の補助を支出することゝし、倍々事業の進行を圖れり。三十九年以來此の事業を、縣に移して基本調査に着手せり。四十一年六月耕地整理事務を獨立せしめ、新に一課を設け、一層督勵を加へ、調査設計の完備を速成すると同時に、工事の監督を嚴密ならしめたり。而して工事費の補助は、更に四萬圓を繼續支出することゝせるのみならず、施行地に於ける土工を助くるが爲め、縣に於て輕便軌條を備へ、必要なる地區に對し、無償貸付の途を設くるに至れり。是に於て各地に於て耕地整理の必要を認め、進みて之を

計畫するもの頗る増加す、明治三十四年より大正二年八月末日迄、十二年八箇月間に於ける耕地整理發起、及び組合設立の認可を経たる箇所は、總計八十八、此の面積一萬五千七百七十五町六反歩餘に及び、其の内工事に着手し、若くは竣工せるもの八十箇所にして、此の面積一萬三千五百三十四町歩餘を算し、之に併置せる揚排水機の浚成せしもの二十二箇所にして、其の總馬力二千二百三十六の多きに達せり。而して縣下各郡中耕地整理を最も多く施行したるは、山武郡の四千七百五十八町歩を第一とし、東葛飾郡の二千八百二十六町歩、香取郡の二千三百九十五町歩、君津郡の千七百九十四町歩、印旛郡の千六百三十六町歩等順次に亞ぐ。

工事施行方法

耕地整理は耕地の状態の異なるに隨ひ、或は灌溉を主とするあり、或は排水に重きを置くあり、或は區劃整理を基とするありて、各々其の趣を異にす。地區の廣狭に依り、方法を異にするが如きは、固より言ふ迄もなし。現在施行せる一地區は平均百四十町歩内外なりと雖も、其の小なるは十町歩に充たす。大なるものに至りては、二千九百五十九町歩を越ゆ。

排水機其他利用

而して江戸利根兩川沿岸の如き、古來夥しく湛水して耕作すること能はざる地方、若くは耕作し得るとするも、常に湛水の爲め、往々作物を腐蝕せしむる地方、假へば印旛郡布鎌村請方、東葛飾郡馬橋村附近、同郡新川村深井新田、梅郷村今上、野田町七福村附近、關宿町二川村附近又は夷隅郡中川村等の如き地區を始め、之に類する地方にして耕地整理を行ひ排水機を設け、多

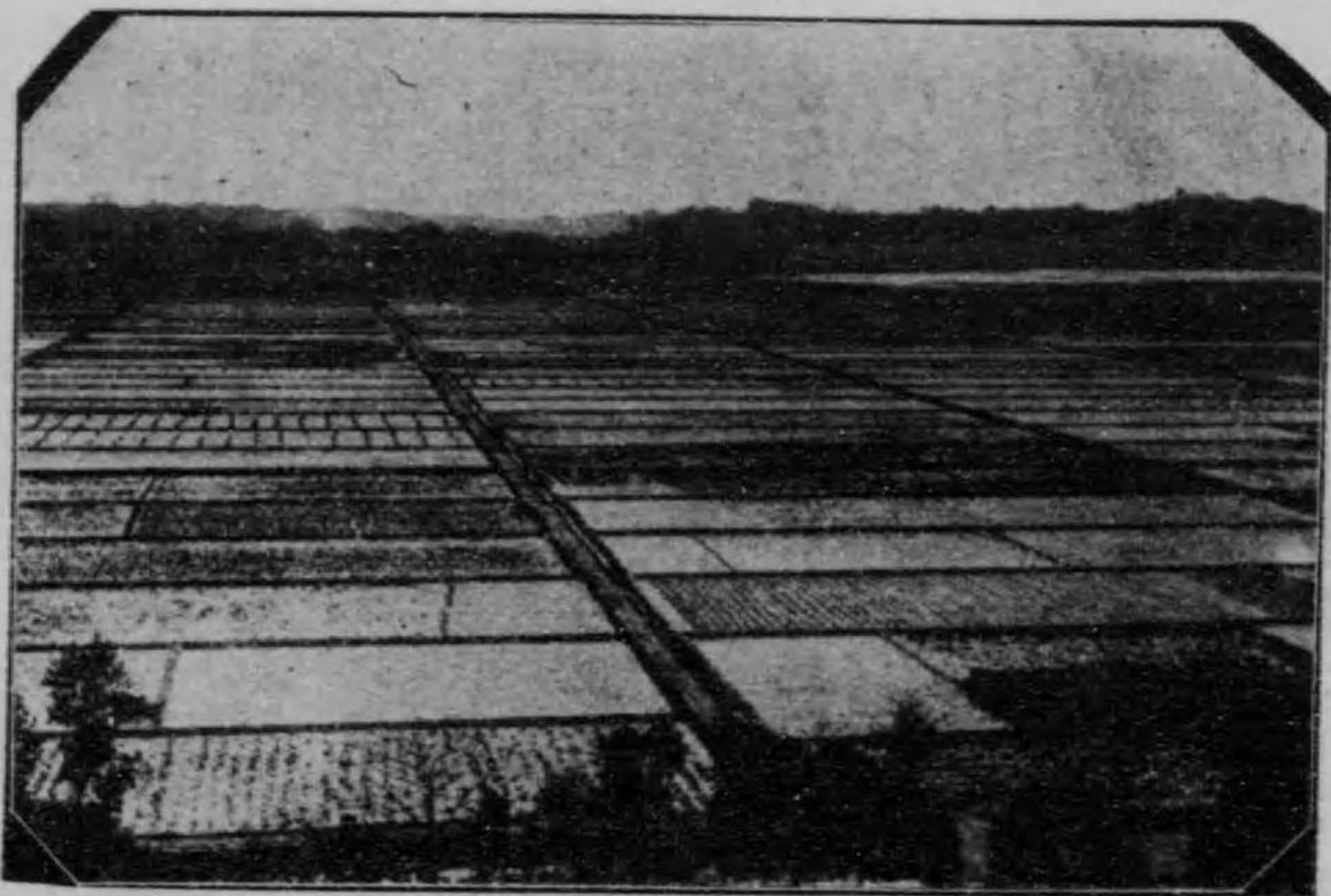
大の利益を收め、又た暗渠排水を備へ良田を得るに至れるのみならず、從來旱害を受けたる水田も溜池の新設、修築浚渫、用水堰上等の爲め、永久安全なる用水源を得、又は用水路が縦横に開通したるが爲め、幾回も用悪水を利用し得るに至れり。

整理工事費額

耕地整理に要する費額は、地區の狀況に依り著るしき差違あり。少なきは田畑一反歩當り金四五圓にして、多きは四十一圓に及ぶ。明治三十四年より大正二年八月に至れる施行面積一萬五千七百七十五町六反歩餘に要する工事費用豫算は、金百七十三萬七千三百六十三圓四十五圓餘にして、總面積に要する一反歩平均整理豫算は、十一圓四十四錢八厘なるが、又田畑面積に對するものは十三圓三十五錢なりとす。其の整理費用は概ね借入金を以て支辨し、更に之を關係土地所有者に分賦して償還する方法に據れり。

重なる整理地區

而して縣下に於ける耕地整理施行地中、設計完全にして工事の見るべきもの、内三四を擧ぐれば、香取郡多古町、山武郡綠海村、長生郡一宮町、香取郡府馬村、東葛飾郡七福村及び野田町、同郡坂川排水、山武郡東部聯合耕地整理組合地區等は是れなりとす。就中山武郡東部聯合耕地整理組合地區は、甚だ廣大なるものにして、横芝、松尾、上堺、蓮沼、太平及び匝瑳郡白濱の二町四箇村に互り、其の面積二千七百二十九町歩餘を有し、其の内、松尾、横芝兩町に介在する二百十餘町歩の荒地は、世俗の所謂烏喰沼にして、明治維新の際太田松尾藩主が、卒然開墾を企てたるも、時機未だ

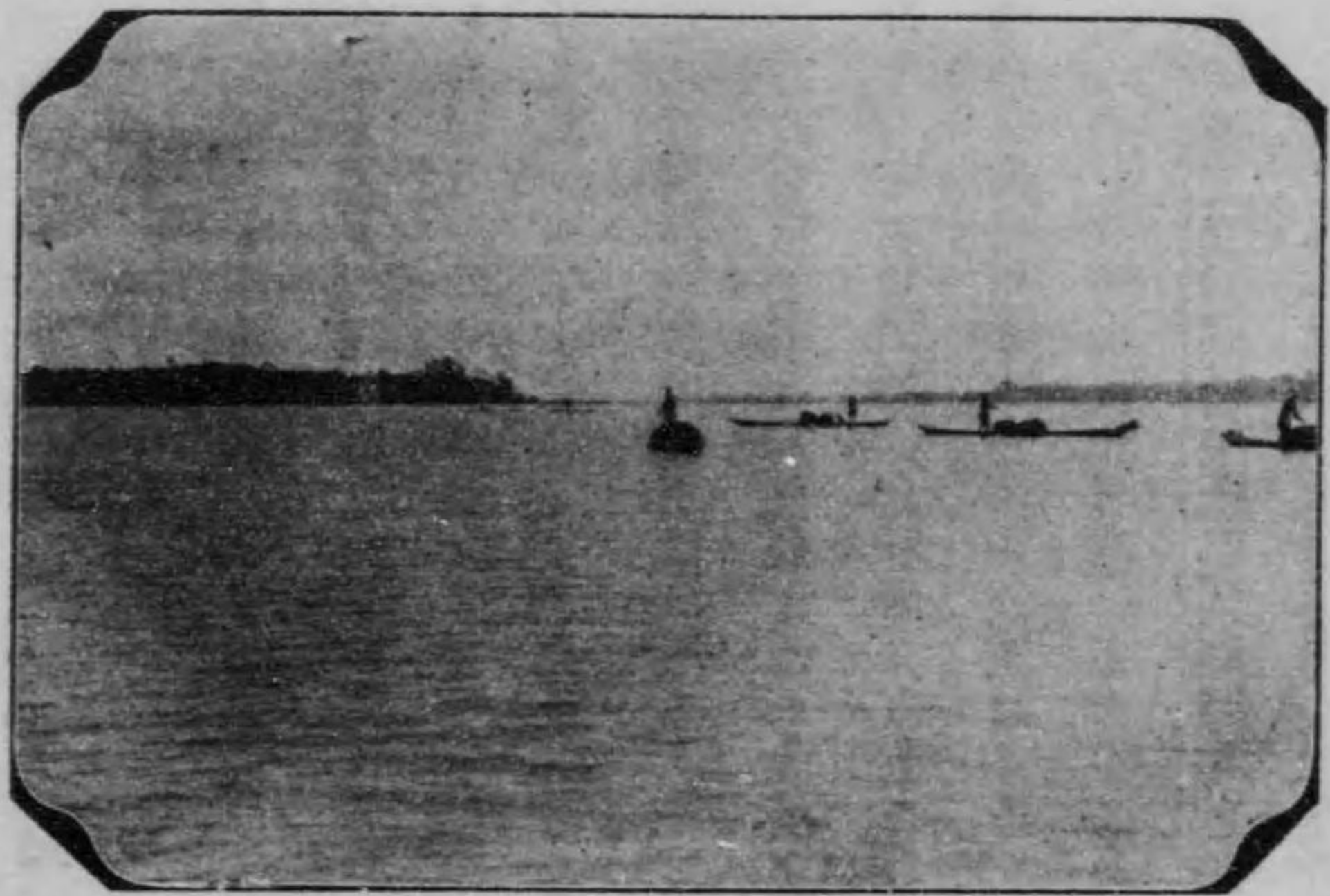


香取郡多古町耕地整理

算し、合計七萬八千九百八十三錢六厘を得るに至れり。又東葛飾郡八幡、市川、行徳、國分、八柱、中山、葛飾の三町四箇村に亙り、西方江戸川を堺とする面積千九百一十町歩餘の耕地に對し、工費金總額十二

至らず、遂に中止したる處なり。元來同沼は松尾、横芝及び大平二町一村地方に、灌溉する主用の用水貯溜池たりしも、其の水深甚だ浅く漸く一尺五寸内外に過ぎざるを以て、全支配耕地九百有餘町歩の水田は用水の不足に苦むを常とせり。故に用水源は新に機械力に依りて之を栗山川に求め、其の灌溉區域は從來烏喰沼支配耕地の外、更に廣く蓮沼及び上塚全村に及ぼすと共に、烏喰沼を始め附近五反田、并に龍立沼を開發し、耕地の擴張を圖る計畫にして、之が工費總額金二十八萬六千四百四十五圓餘を豫算し、明治四十五年三月工を起し、今や全く竣工せり。之に併置せる揚水機は、三百五十馬力の動力を以てせり。而して其の面積二千九百五十九町歩餘の整理を見、田一反歩當り平均純益一箇年四圓九十七錢六厘に積

萬三千六百萬圓を豫算し、目下工事中に屬す。尙又印旛、東葛飾兩郡に跨る手賀沼の約二千五百有餘町歩の地區に、將た長生郡關、白潟、東郷、高根本郷、八積、土睦、一松の七箇村に亙る約五千町歩の



耕地整理

地區に、是れ亦耕地整理を施行すべく調査既に全く成り、今や將に着手せんとす。而して手賀沼に於ける耕地整理の如きは關係町村人民に於て、全く熟議を遂げれば、之が工事の着手を見るも遠きにあらざるべし。

手賀沼
整理成績 而して一たび整理せる地區は、一般に顯著なる成績を示せり。即ち田地に於ける收穫が一割五分内外の増收を見るは普通にして、加ふるに耕作勞力に於て二割内外を減じ且農作をして容易ならしむる等、彼是綜合すれば、其の利益甚だ多し。惟ふに施行後に於て土地の利用を全ふし、整理地の維持管理に缺くる所なからしむるに至らば、農業生産に寄與すること最も夥しとす。況んや整理實施の結果は、農民一般に愛土心を起し、就中水防に深く注意を拂ひ、堤防の缺潰を少なからしむるに於てをや。

蠶 絲

本縣に於ける蠶絲業の起源は、邈として詳ならずとも、史を案ずるに、元正帝の御宇靈龜二年に當り、上總下總等の高麗人を武藏に移すの記事あり。蓋し高麗人は紀元九百年代に於て、蠶絲機械の業を擴むるが爲め、諸國に分置せられたる歸化人の子孫にして、此の時代既に蠶業の行はれしを推知し得べきのみならず、養老元上總に始めて純の調を貢せしむるの記事あり、降つて醍醐帝の御宇延喜式を定め、庸調科度の制を設けらるゝや、上總、下總は龜絲國に列せられしを以て之を觀れば、其の當時各地方に養蠶機械の業を營まれしは疑を容れざる所なり。爾來幾百年間事業上、多くの盛衰變遷は免れざりしと雖も、惟ふに往時に在りては、多く山野自生の桑葉を採取し、育蠶に供用せしもの、如く、徳川時代に至り、各藩の奨励に基き、栽桑と共に之を經營するもの漸く多きを加へ、明治維新後、明治六年頃、縣は製絲器械を有志者に交付し、又は勸業試驗場を設けて養蠶製絲の傳習等を行ひ、十四五年頃より、一般殖産事業の振興と共に、斯業の奨励に力を致し、特に桑樹の貸付、年賦償還法を定めて、桑苗の配付を爲し、或は地方に養蠶傳習所を設置し、又は教師を派遣する等専ら斯業の改善普及に努め、二十二年に及び、君津郡に南總組、夷隅郡に大多喜製絲場等の器械工場起り、大に斯業の振興を見るに至れり。二十八年縣農會の設立せらるゝや、同會事業中に之を加へ、三十二年蠶絲の

専門技術者を置き、専ら技術の指導及び蠶業上の智識普及に努め、四十年縣費補助を以て、生絲共同揚返所數箇所を設置す。四十一年桑園改良奨励規程を發布して桑苗の交付を行ひ、爾來之を續行す。四十三年縣立農事講習所を匝瑳郡福岡町に設け、斯業の中樞機關として、年々蠶絲技術者の養成を爲す。四十四年更に原蠶種製造所を、講習所敷地内に併置し、蠶種の改善と共に繭質の改良整理を目的とし、地方種繭審査會と相俟ち、原蠶種の製造配付及び蠶の試験調査を行ふ。之より先き四十一年大日本蠶絲會千葉支會の設置せらるゝや、縣は同會に對し、縣費を補助し、斯業の改善發達を圖ると共に、事業の共同經營を奨励し、目下之に關する團體は、各地到る處に設立せられ、縣の施設と相俟ちて、益々堅實なる發達を爲し、今や本縣生産事業中最も重要な地位を占め、之が一盛一衰は縣經濟上至大の關係を有するに至れり。

桑園 往時は各地山野に自生せる山桑を利用し、現に安房、夷隅兩郡地方の山間部に於ては、今尚ほ稚蠶期に多少之を用ふと雖も、養蠶業の發達に伴ひ、漸次畑地に栽培し、明治二十六年の頃に於ては、桑園としての反別、僅かに二百十二町歩に過ぎざりしも、爾來年々之が増殖行はれ、大正元年度に於ける現在總反別は、一萬七百八十三町歩に達し、最近十年間に於て、約七分の増加を見るに至れり。桑樹の品種は市平、相模、鶴田、魯桑、甲撰、中沼、十文字等にして、就中十文字其の七分を占む。仕付方法は概ね根苧にして、春秋兼用桑園最も多く、専用として之を設くもの極めて少なし。

殊に近時秋蠶の勃興に伴ひ、桑葉の採取烈げしく、管理之に伴はず、漸次荒廢の傾向あるを憂ひ、縣は四十一年以來桑種苗の無償配付を行ひ、以て荒廢防止の法を講じつゝありしも、桑園の著るしき増加と共に、之が多數の要求を充すこと能はざるを以て、大正二年度より更に各地方に於て、桑苗圃の設置を奨励し、種類の改善と共に苗木需供の容易ならしめんことを圖り、一面町村部落に模範桑園を置き、以て桑園管理の範を示し、之が改良増殖に對し専ら力を注ぎつゝあり。

養蠶 本縣は氣候風土共に蠶桑の業に適し、農家好個の副業として頗る有利なるより、縣下各地に於て、之に従事するもの多く、就中東北方面即ち山武、匝瑳、印旛、香取、長生、海上各郡等に於ける生産多く、西南郡部即ち殘餘の各郡は、比較的飼育者の數少なしと雖も、逐年之れを營むもの増加し、殊に秋蠶の發展著るしきを見る。今や最近十箇年間に於ける養蠶業の狀態は、現在の收購は春蠶六分五厘、秋蠶三分五厘

養蠶短期講習生採桑の状況

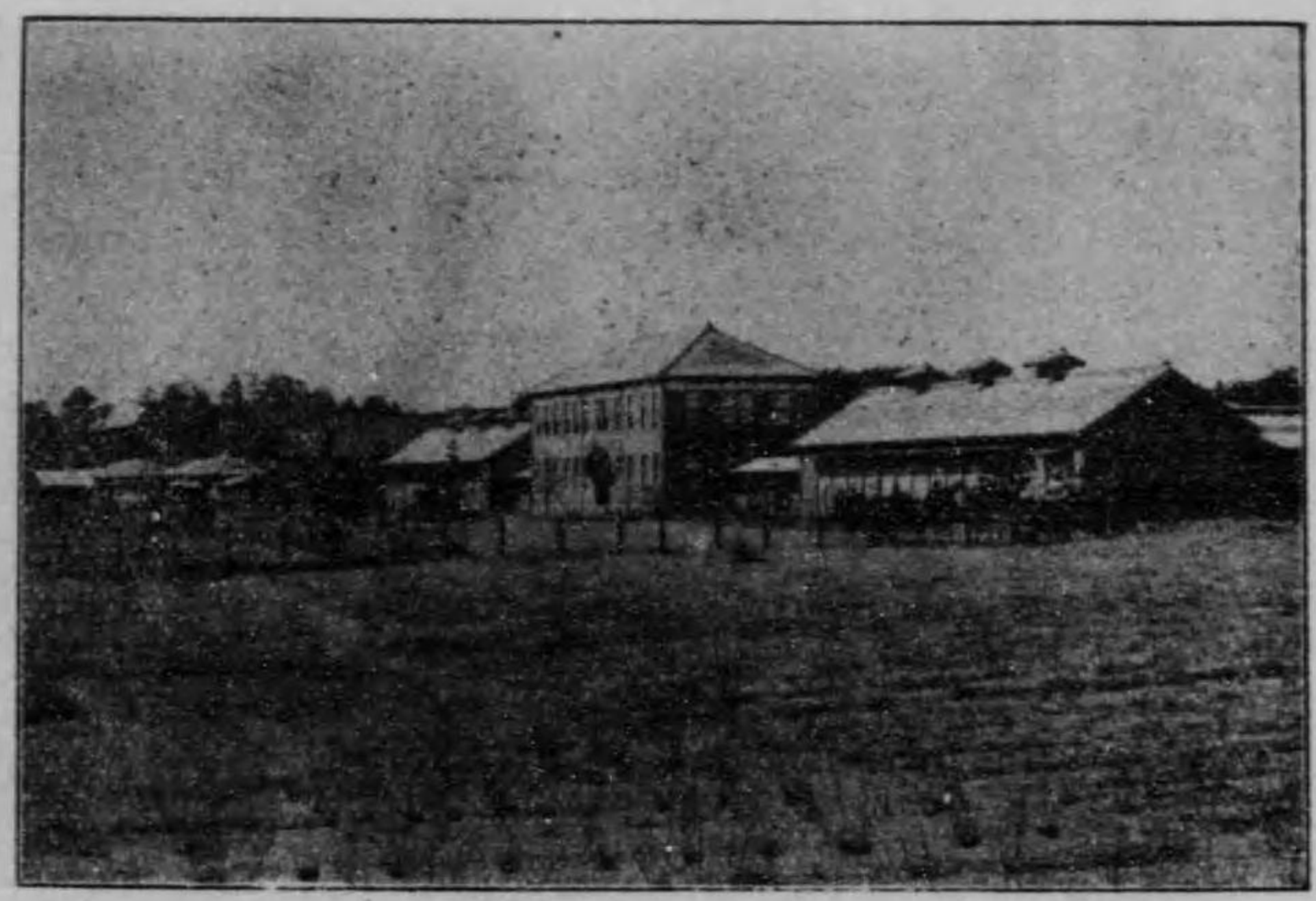


の割合にして、總額十一萬一千石此の價額三百八十萬圓に達し、今や其の産額に於ては、全國中第十二位を占め、之を既往明治二十六年頃に比すれば、殆ど六倍の増收を見るに至れり。而して一般飼育の方法に於ても、近時斯業に對する智識技能の進歩に従ひ、組織經營の方法漸く堅實に赴き、孰れも副業的經營を旨とし、設備及び勞力の配劑に依り、適當の飼育を爲し、且各地部落に養蠶幾何の小團體を組織し、其の數殆ど四百七十有餘を有し、蠶種の統一及び保護、稚蠶飼育、成繭販賣、救濟貯金等の共同的經營を爲すもの漸次増加し、益々穩健の發達を見る。

蠶種 縣下掃立の蠶種は、從來他府縣よりの移入最も多く、隨つて其の供給區々に涉り、自ら其の品種雜駁にして、養蠶製絲上に及ぼせる不利少なからず。故に縣は先年原蠶種製造所を設置し原蠶種の製造配付、及び諸般の試験調査を行ひ、蠶種の製造と共に、是等品種の改善統一に努めつゝあり。蠶種の生産額は大正元年の現在に於て、特別蠶種七百七萬八千五百蛾、普通蠶種二萬二千五百枚を生産し、最近十箇年間に於て四割餘の増加を示し、殊に特別蠶種に於て最も著るしきを見る。隨つて從來他府縣より供給を仰ぎたるもの、漸次其の移入の減退と共に、縣内蠶種の需用多きを加ふるに至れり。現今一般に飼育する蠶種の品種は、今尙ほ其の數多しと雖も、主なるものは春蠶に在りては、又昔、青熟、中巢、伊達錦、白玉の類にして、秋蠶に在りては實來、日本錦、玉錦、白龍、青熟、中巢の類最も多し。

蠶絲業の生産 本縣蠶絲類の生産額は、縣内産繭額に對する約三分の消費に過ぎずして、殆ど七分は繭の儘に、信濃、甲斐、武藏及び尾張各地に搬出す。大正元年に於ける生絲の産額は、二萬三千六百七十四貫にして、此の他玉絲、屑絲、真綿等を合せ總計三萬千二百二十三貫を生産し、最近十年間に於て、約三步の増進を示せり。而して座繰製絲の戸數は現在千八百六十九戸にして、近來之が生産戸數と共に産額稍減少の傾向ありと雖も、器械製絲は現在十七工場、總釜數千四百七十九釜にして、逐年其の數を増加す。然れども百釜以上のものは漸く三工場に過ぎず。而して概して其の規模大ならずと雖も、君津郡に於ける南總組の如きは、産業組合法に準據し五工場を一團體とし、共同に依り揚返し及び荷造販賣を共にし、市場に聲價を昂く。此の他二三合同販賣を爲し、又は産業組合組織の製絲經營を爲すものあり。漸次經濟的發達を爲すの機運に向ひつゝあり。尙ほ玉絲、真綿等の生産は其の産額多からずと雖も、近時産繭額の増加に伴ひ、農家婦女子の家内工業として屑物整理に着目し、之を生産するもの逐次増加しつゝあり。

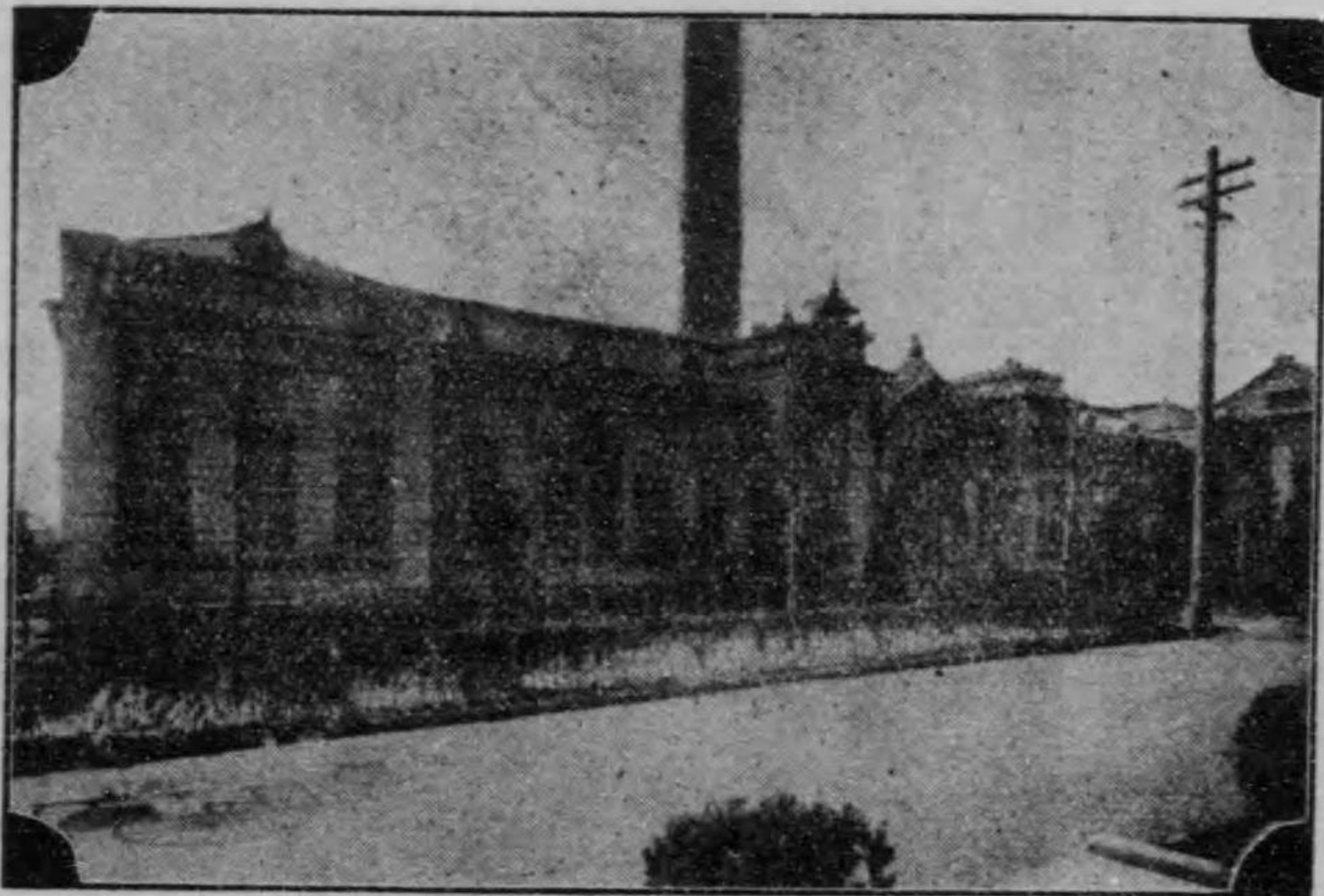
農事講習所 明治四十二年七月の創立にして、匝瑳郡福岡町に在り。四十三年三月工事の竣成と同時に事業を開始す。四十四年五月二十日 東宮殿下行啓、親しく養蠶實習の實況を御台覽あらせられ、特に御尊影拜戴の光榮を荷へり。同所の事業は主として、蠶絲業に従事せんとする者を養成せんが爲め、毎年生徒を收容し、斯業上必須の學理及び實習を爲さしむ。生徒の入學資格は年齢十八歳



縣立農事講習所

以上にして、高等小學校卒業程度とし、修業期間は一月より十二月に至る一箇年間とす。創立以來卒業者を出すこと四回、其の人員百四十七名として、是等は何れも自家の養蠶に製種に、其の他養蠶組合の技術者として、各地に聘用せられ、専ら斯業の爲に力を盡しつゝあり。又同所の事業として冬期農閑を利用し、三十日間の講習會を開き、女子に玉絲及び真綿の製造法を講習し、是れまで修了者を出すこと四回人員八十七名にして、爾來是等の傳習を受け、各地方に於て農村婦女の副業として、之を營むもの漸次多きを見るに至れり。此の他同所の事業として各地に隨時講習講習會を開き、技術者の統一及び學理の普及を圖り、又は蠶種の製造配付を行ひ、其の他蠶業上諸般の研究調査を爲し、是等成績を發表し専心本

縣蠶業の中樞機關として斯業の改良發展に貢獻す。
蠶業取締所 明治四十五年一月蠶絲業法の實施に伴ひ、本所を千葉郡千葉町に、支所を匝瑳郡福岡



蠶病豫防事務所

別蠶種に於て多く鏡檢を要するを以て、大正三年より女子の鏡檢吏員を採用することとし、本年一月以來三箇月間女子の蠶業講習を行ひ、吏員を養成して検査事務の遺憾なきを期せり。



南總組揚返所

原蠶種製造所 明治四十五年二月の創立にして、匝瑳郡福岡町縣立農事講習所敷地内に併置す。事業は繭質の改良整理を目的とし、原蠶種の製造配付、並びに蠶種の改良に關する試験、及び調査を行ふ。

原蠶種の製造は、當分一化性春蠶種のみにして之が製造に供用すべき種繭は、同所に於て生産したるもの外、蠶種製造者の生産したる種繭を購入して之に充て、大正二年度の配付額は一萬八千蛾にして、本縣蠶種製造者の本年春蠶掃立蛾數に對する一割九歩に相當せり。蠶種は總て蠶種製造者に對し無償配付とし、受配付者は原種百蛾に對し、二千五百蛾以上の蠶種を製造するの義務を負はしめ、之が系統的蠶種の普及を圖り、以て繭質の改良統一を期す。又同所は原蠶飼育の外、一面試験育として、春秋兩期に於て蠶の種類試験を主とし、蠶種の製造及び育蠶上に關する諸般の試験並に調査を續行し、之が成績を發表し、以て斯業の改善發展に努めつゝあり。

地方種繭審査會 明治四十五年五月規程を定め、蠶絲

業法及び種繭審査會規則に則り、官公吏八名及び養蠶者、製絲業者、蠶種製造業者の各實業者より九名總計十七名に委員を任命し、原蠶種の選定及び種繭の審査を行ふ。原蠶種の種類は、當分一化性春蠶種の内、又昔、青熟、中巢、白玉、伊達錦及び清國種の六種類に限定し、種繭の審査は審査請求者より、各種類中の種繭の内二升を提供せしめ、飼育中に於ける調査を參酌し之れを行ふこととし、大正二年前に於ける審査請求数は點數九十四點にして、内、審査の合格を得たるもの五十二點、此の種繭十石八斗四升なりとす。同會は本縣原蠶種の製造配付と共に最新の事業にして、開始以來日尙は淺く、未だ之れが成績を知るに由なしと雖も、今後縣下繭質の改良整理上に於ける効果は、甚だ多かるべし。

蠶種同業組合 明治四十年七月の創立にして、主要物産同業組合法に據り縣を以て地域と爲し、蠶種の製造販賣を業とする同業者を以て組織し、事務所を千葉郡千葉町に置き、各同業者間相互の氣脈を通じ、蠶種の改良を圖ると共に營業上の弊害を矯正し、以て斯業の福利増進を期するを目的とす。目下組合の重なる事業としては、原種の無償配付、種繭の蛹體検査、機關雜誌の配付、講習講話品評會開催及び原蠶種の製造其の他に關し、縣の施設獎勵と相待つて事業の遂行に努め、同業者の便宜を謀り斯業の改良發展上貢獻する所甚だ多し。目下組合員は總數二百二名とす。

蠶絲業團體 縣は大日本蠶絲會千葉支會に對し、養蠶組合の設置、及び蠶絲業上の改良獎勵を爲すを條件として、年々補助金を交付し、爾來支會は各郡に設置せる同委員部、及び組合聯合會と相携へ共に之が獎勵の衝に當り、蠶絲業に關する重要事項の講究を爲し、又は講習講話及び品評會の開催、機關雜誌の發行、成績者の表彰、其の他諸般の改良事項に就き、當業者に指示して實行を促し、以て斯業の發展鼓吹に努めつゝあり。目下各地方に於ける養蠶組合の數は、四百四十箇所にして、其の員數約一萬四千餘人に達せり。而して是れ等の組合に於ける共同事業の重なるものは、蠶種及び蠶具肥料等の共同購入、稚蠶飼育、養蠶教師の備聘、雜蛹乾繭、繭の販賣、勤儉貯蓄、共同桑園の設置等にして、斯業の改良發展上直接に間接に享有する利益頗る多く、近時之れを設置するもの益々續出するを見る。組合の地域は養蠶戸數の比較的少なき地方に在りては、一町村を區域とするも、是等は其の數甚だ僅少にして、町村の一字を區域とし、三十名内外の共同を最も多しとす。又其の員數多き處に於ては、更に之を二三に區分するものなり。蓋し組合の大なるもの寧ろ小なるものが、却つて其の效果多ければなり。

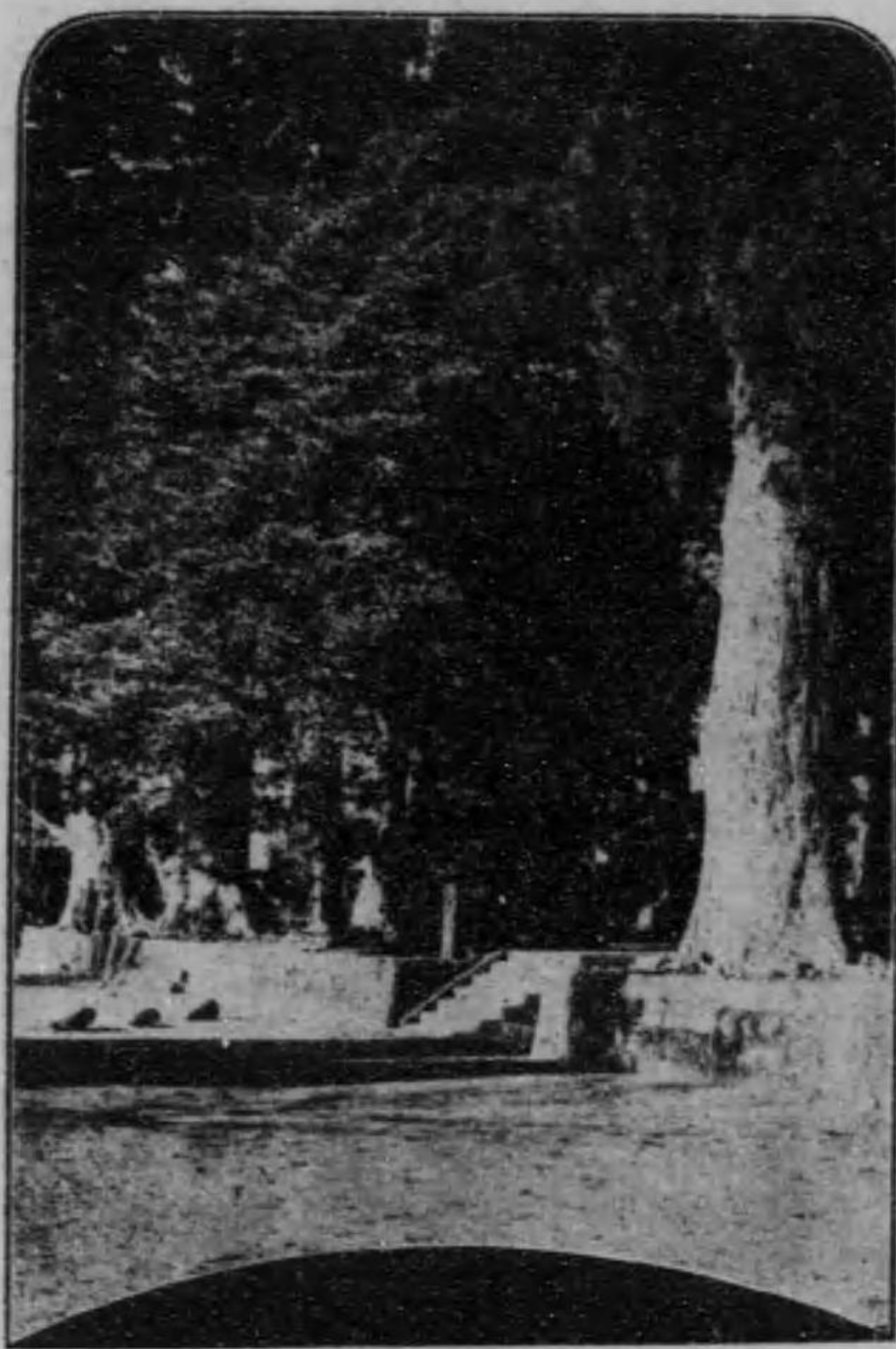
林業

本縣の林業は、氣候風土の關係上、樹木の生長比較的速かなりと雖も、林野は全管内面積の約四割に過ぎず。一般に松杉、檜、樺等を産出し、頗る薪炭材に富む。殊に佐倉炭の如きは、黒炭の白眉と稱せられ、古來名聲を全國に博せり。而して近時交通運輸の道開け、都市の發達に伴ひ、木材の需用著るしく、増加するに至りし雖も、之と同時に農事の改良と、蠶業の發達とは、林野の開墾を促し、林地の面積は漸次減少せり。大正二年三月末日の調査に依れば、縣下に於ける森林は御料十三町歩、國有林九千二百四十九町歩、公有林六千九百九十四町歩、社寺有二千八百八十八町歩、私有十二萬五千五百八十六町歩、合計十四萬三千九百三十町歩（以上の内保安林二百七十九町歩、基本財産林二千八百五十二町歩）なり。又原野は御料三千九百十五町歩、國有二千十町歩、公有其他一萬九千三百六十五町歩、合計二萬五千三百七十町歩なり。以上山林原野の總計反別十六萬九千三百町歩にして、之を前年に比すれば、既に二千二十九町歩を減少せり。

森林植物 本縣は、氣候溫暖にして、海岸に沿ひ濕氣に富み、植物の生育上、頗る良好なるを以て樹木の生育旺盛にして、多數の樹種あり。之れを森林植物帶上より見れば暖帶林に屬し、檜、椎、常綠凋葉樹、其他榊、ひさかき、樟、たふ等の常綠凋葉樹等種々なる暖帶特有の林相を形成するもの

少なからず。

森林産物 森林産物は、薪炭、用材、竹材、苗木、及び雜産物にして、薪炭を以て第一とす。最近の調査に依れば、其の生産價額は薪材は七十萬二千五百四十七圓、木炭は五十七萬二千二百二十四圓なり。



鹿野山仁王門前の杉

薪炭材は大部分松にして樺、檜、之に亞ぐ。製炭法は佐倉式黒炭を主とし、下總及び上總地方一般に行はる。又白炭は房州清澄山を中心とし、多く房總の山間部に製出せらる、而して本業は概ね農家の副業として、農閑に製造され、專業者少なし。製品の大部分は東京市場へ輸送さる。用材は松、杉、扁柏、樺、榎、栗、櫟、櫻等にして、丸角材、挽材、擲材、下駄材、及び電柱材として、管内の需用を充たすと同時に、盛に東京市場に輸出せられ、今や製材工場は印旛、千葉、山武、東葛飾、安房、君津の各郡に設けらる。其の生産價額は、年々少なくとも八十萬圓を超ゆ。竹材は本邦第一の産地として數へられ、年額十萬圓内外を産

出す。又苗木の生産輸出も少なからず。而して安房郡の鋸山、愛宕の山腹其の他より採掘せらるる、房州石、金谷石、及び夷隅郡の松部石、海上郡の高神石、并に安房郡の白土等は、年々の産額三十萬内外にして、需用益々増加しつゝあり。此の他に樹實、椎茸、其の他自然生蔬菜の如き食品、及び檜皮、松皮、竹皮、棕櫚、干草等の如き、雜産物を合すれば、是れ亦年額十萬圓以上なり。要するに本縣の林産物は約三百萬圓にして、其の大半は縣外へ輸出す。

御料林野 御料林野は其大部分は、國有原野百町歩以上の集團地を、明治二十二年宮内省御料局の所管に移されたるものにして、海上、匝瑳、印旛、安房の各郡を除き、縣下各郡に跨る。就中夷隅郡最も多く、三千四百六町九反歩の多きに達す。是等の土地は、從來地元住民との慣行に依り、土地を貸付して造林せしめ、又は採草せしめつゝあり。

國有林野 國有林野は面積一萬千二百五十九町歩にして、東京大林區署の管轄に屬し、其の内、存置林野九千五十八町一反歩、不要存置林二千二百町九反歩なり。而して要存置林野にして、將來施業の計畫確立せるものは、奥山及び筒森事業區とす。奥山事業區は、君津郡龜山、豊岡各村の集團より成り、筒森事業區は夷隅郡老川上野村の大團地、及び總野村大多喜町の地點より成る。

公有林野 公有林野の面積は一萬六百五十町七反歩にして、約七割の部落有林野を包有す。而して其の分布の狀況は安房郡を以て首位とし、君津、市原、夷隅、長生の各郡順次之に亞ぐ。

社寺有林野 本縣は頗る舊き沿革を有し、到る處史蹟に富み、社寺有林野の如きも三千百七十三町二反歩を算す。元來社寺有林野は國有林に比し、概ね地勢緩斜にして、甚だしき峻峻を見ず。而して其の狀況は私有林野に酷似し、天然林の大半を人工造林に變更せるもの多く、其の九割二分は營林方法確定して、杉、松、櫛、楮、檜の五種を植栽し、漸次社寺有林野の整備を期し、以て社寺の基本財産を増殖すると四時に、社寺の風致を助け、一層其の壯嚴を高からしめんとしつゝあり。

私有林野 近時縣下到る處林業の重んずべく、植林の忽すべからざるを自覺し、私有林野に植栽を試むるもの漸次増加すと雖も、未だ合理的林業を施すに至らず。然れども大部分は扁柏、羅漢柏、杉、松、落葉松、樟、栗、櫛、楮、檜、榎の植栽に努め、之と同時に縣は無償を以て樹苗を交付し、専ら林業の指導獎勵に力を盡し、今や良成績を挙げつゝあり。

保安林 縣下に於ける保安林は四百五十四箇所二百七十九町歩にして、今後防風及び魚附林として保安林に編入を要すること夥しきを以て、縣は將に銳意之が調査に着手せんとす。

縣基本林 縣は明治三十八年縣有財産及び模範林造成の目的を以て、繼續事業を定め、其の植栽面積を約一千町歩とし、之に要する經營五萬三千六百餘圓を以て、三十九年より大正四年まで、杉、松、扁柏、楨等を植付くる計畫を立て、之を實行しつゝあり。其の規模敢て大ならざるも、縣は之に依り確實有利の基本財産を作ると同時に、民間に向ひ林業の模範を示し、之が改良増植に裨補する所あり

るべし。此の事業に着手するに先ち、君津郡鬼涙山國有林野面積七百五十三町歩に對して部分林を設
置し、且同林地内に五町一反歩餘の苗圃を設置せり、三十九年以來今日に至るまで、樹種を栽植せる
こと約二百七十萬本にして、面積六百町歩に及べり。其の部分林の分收歩合は、國は百分の二十五、
縣は百分の七十五にして、存續期間は八十箇年とす。

縣模範林 縣は農商務省より交付せられたる植樹獎勵費に依り、明治四十年及び四十一年に於て樟
の模範林を造成したり。其の個所面積及び植栽苗數は左の如し。

個所	面積	植栽苗數
安房郡健田村大貫	三〇、〇〇	三七、二〇〇
君津郡富岡村下根岸	一〇、三五	一七、二〇〇
同郡同村下郡	八、六五	一六、九五〇
同郡同村田川	一〇、七五	一一、四〇〇
同郡小櫃村三田	一〇、二五	一四、三五〇
計	七〇、〇〇	一〇七、一〇〇

右地上權設定の地代は、安房郡樟模範林に於ては、產物及び之を原料とせる製材製品等を賣拂ひたる
代金、其の他收得金の百分の三十五、君津郡に於て百分の五十なりとす。



縣 基 本 林 苗 圃 圖

造林補助 縣は魚附林補助の必要を認め、明治四十一年縣令を以て造林補助規程を發布し、四年よ
り一箇所三段歩以上の造林を爲すものに對し一町歩に付金二十五圓以下の補助金を交付する規程を設

けしより、魚附造林を爲す者年々増加せしが、大正二年
七月經費節減の結果該規程を廢止せり。又四十三年より
町村又は町村組合の事業として、公有林を造成する者に
對しても、一町歩に付金二十五圓以下の範圍内に於て相
當の補助を爲すの規程を設け、専ら公有林の整理開發に
努めつゝあり。

樹苗交付 縣は有用瀾葉の樹の増殖を圖らんか爲め、
明治四十二年樹苗交付規程を設け、橘、樟、樺、栗の四
種に屬し、無償を以て之を要求者に交付することとせり。
爾來大正二年三月迄に交付したる樹苗は、三十六萬六千
五百二十六本なるが、造林思想の普及發達するに隨ひ、之
を要求するもの多かりしが、經費節減の結果大正二年七
月該規程を廢止せり。

林業講習 從來林業獎勵の爲め、講習會を開き、林業に關する大意を會得せしめ、一般造林思想の普及啓發に努めしが、元來本縣は製炭に於て著名なるも、地方に依り粗製濫造の弊あり。是に於て之を匡正するの必要を認め、明治四十二年十二月より同四十五年三月迄、檜崎式製炭法講習會を開き、教師二名をして縣下各所を巡回せしめ實地指導を爲せり。從來焚込上手數を要したるものと、良品を産出すること能はざりし地方に在りては、其の利する所少なからず。尙ほ傍ら椎茸養成の普及を圖らんが爲め、製炭業と共に實地講習を爲したり。又本縣は竹産地として、本邦第一なるも、其の養成法を等閑に附する者多きを以て、良竹の産出を期し難きに依り、明治四十五年申坪井伊助翁を招き縣下各處に於て之が養成法講演を爲したり。尙ほ現在林の改良造林法及び竹林養成獎勵の爲め、大正三年東葛飾、夷隅郡に之が講演會を開催せり。

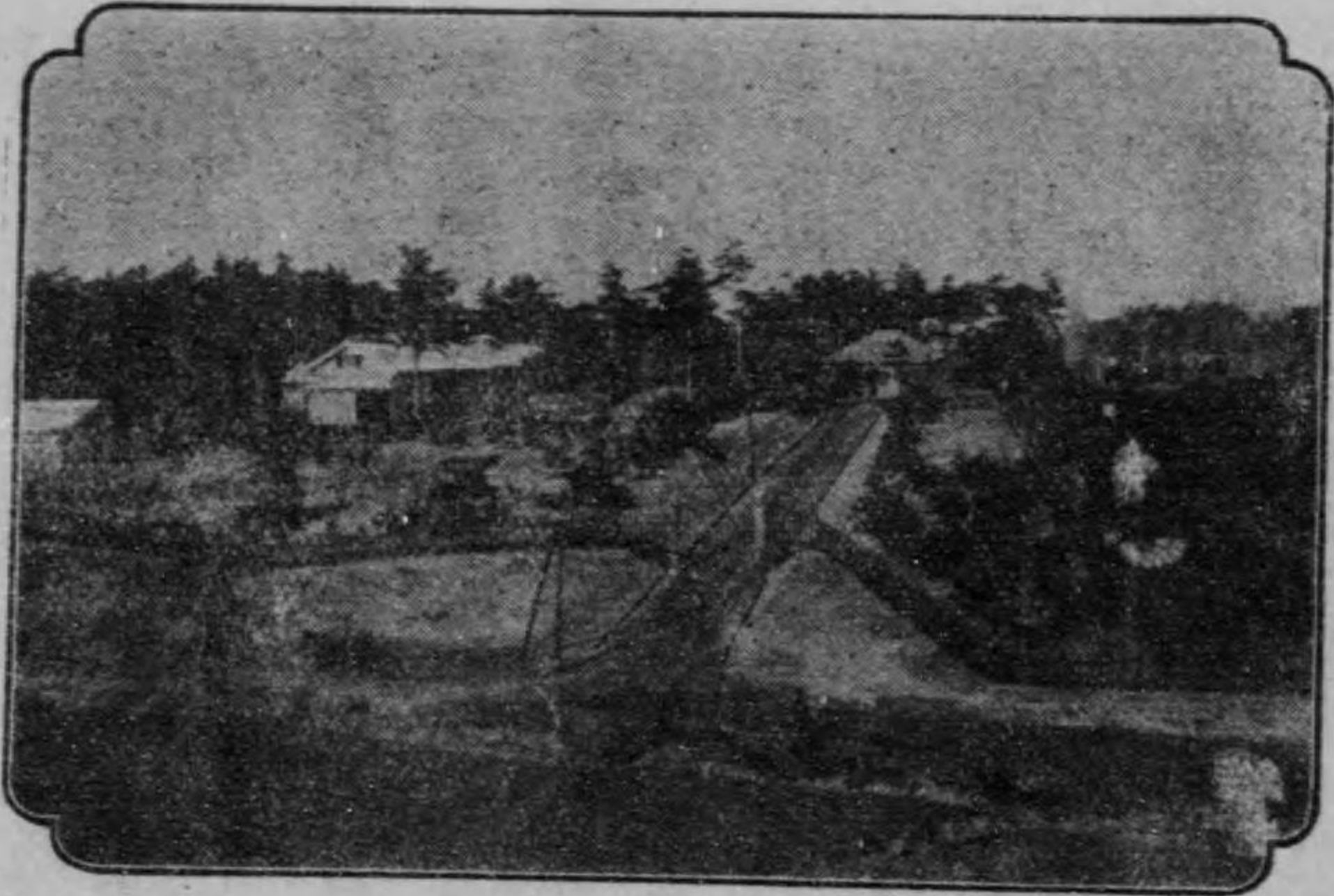
森林組合 造林利用の方法を完備せんが爲め、組合を設けたるは松丘高宕の施業森林組合にして、明治四十二年四月認可を受けたり。組合員百二十名施業地區實測面積四百六十町三反九畝歩なり。

畜産

三大牧場 本縣は曠原沃野連り、水澤青草満ひ、頗る農牧の業を興すに適するを以て、古來三大牧場あり。即ち安房の嶺岡牧、下總の小金牧及び佐倉牧是れなり。元歷年間源頼朝時代に於て、最も盛況を呈したるも、其の淵源は、今より千二百餘年前、文武天皇の御宇、諸國に牧場を定め牛馬を放ちて、之が蕃殖を獎勵せられたるに基く。徳川氏に至り、特に牧士を置き、關東最要の大牧場として名聲を博せり。

畜産の變遷 三大牧場中、最も廣大なるは小金牧にして、其の總面積は、實に一萬五千町の多きに達し、今の東葛飾郡の西北部十箇町村、印旛郡の西部五箇町村、及び千葉郡の西端六箇町村を以て之を圍み、土堤の延長七萬五千九百六十間、即ち二十五里六町の長きに互る。斯くの如き廣野に馬を放ちて、自然的蕃殖を圖り、毎年秋季之を捕へ、駿馬は幕府に獻納し、殘餘は管理者が驛賣を爲し、更に殘餘を生ずれば、再び放牧せるを常とせり。然るに明治維新に及び、小金牧は之を廢して全部開墾地と爲し、佐倉牧は凡そ其の半部を割きて、今の三里塚御料牧場を開き、明治八年海外より、良種の牛馬羊豚等を求めて之を飼養せしめ、以て我邦に於ける種畜改良の基礎を立てたり。而して嶺岡牧場は慶長年間、里見氏が安房國主たりし時、創めて之れを設け、牛馬を放ちて飼養し、尋で徳川氏三百

年間も、専ら軍用馬の蕃殖に努めしが、白河樂翁公の如き、享保年中葡萄牙より、白牛を輸入して蕃



縣立種畜場千葉分場

せんが爲め、縣より蕃殖牝馬獎勵金又は賞品を交付し、斯業に關する共進會、又は品評會を開かしめ、

改良獎勵上必要な施設は、着々實行せられつゝあり。且つ本年より國有種馬種付所を設置せられ、



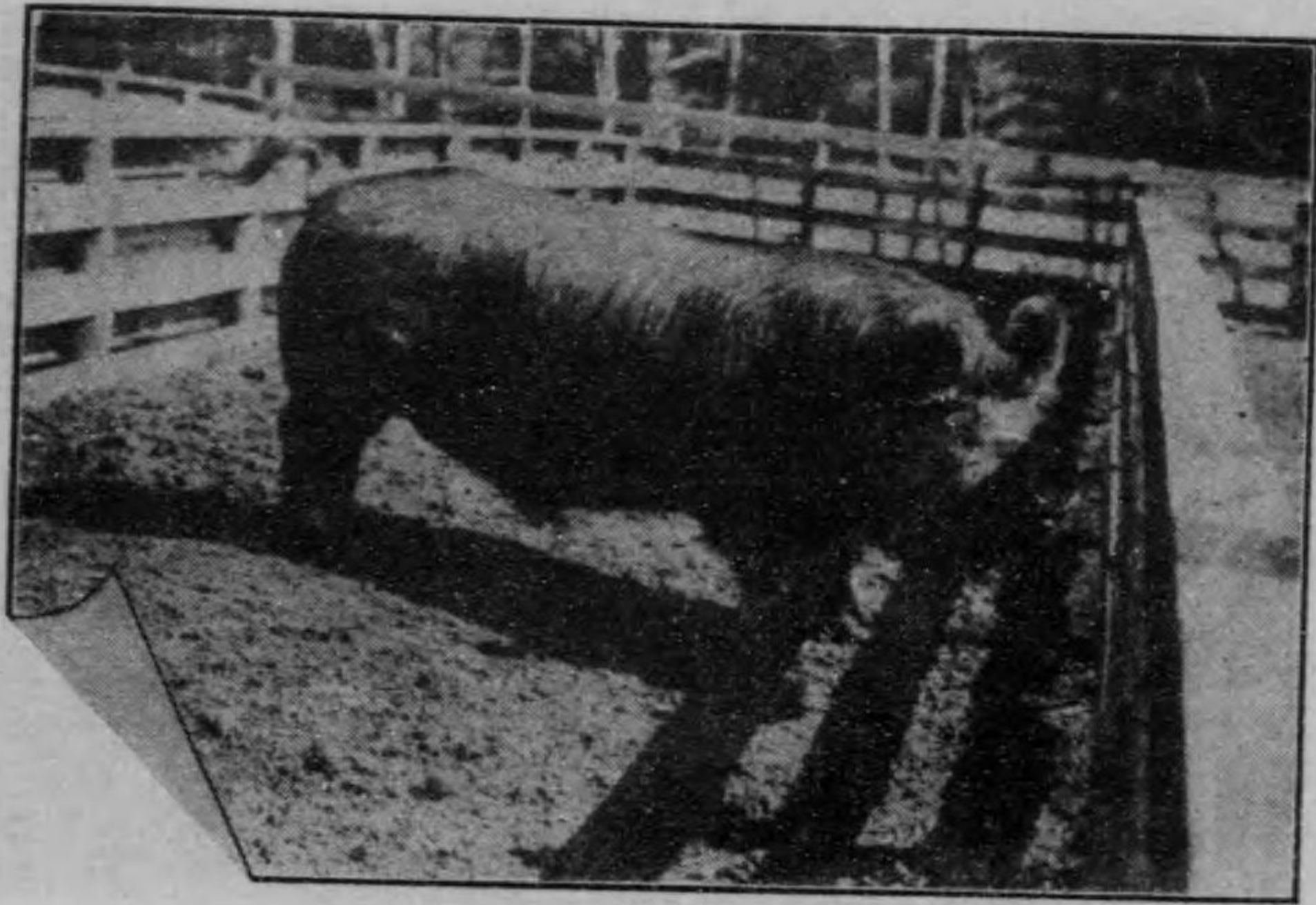
嶺岡種畜場本場

二郡にして、君津郡は其の頭數安房郡に及ばざるも、原野廣く育牛に適し、乳牛としてホルスタイン種

一層斯業の發展を見るに至るべし。現在の馬匹數は四萬三千六百六頭にして、耕作用最も多く、三萬六千八百三十二頭を算せられ、運搬用之に亞ぎ。其の數五千七百三頭なり。之を畜牛に比すれば、九千九百三十七頭多しとす。而して馬の飼養最も盛なるは印旛郡にして、香取、山武、東葛飾、千葉、長生の各郡其の他順次に亞ぐ。

畜牛 牛の主産地は安房郡にして、夙に房州牛の名高し。元來安房郡は、氣候溫暖にして芻草に富み、殊に嶺岡牧場は同郡に在り。専ら畜牛の改良増殖を圖りたるを以て、同地方に於ける畜牛思想の普及に與りて力ありしや知るべし。而して安房郡は獨り頭數の多きに止まらず、優良なるもの最も多く、就中ホルスタイン種の如きは、大に聲價を昂く。同郡に亞ぐべき産地は、君津山武の

及びエアシャー種の蕃殖多く、優良なるもの少なからず。山武郡は未だ頭数多からざるも、種類一般



縣立畜種場種豚

の三千五百七十三頭之に亞ぐ。

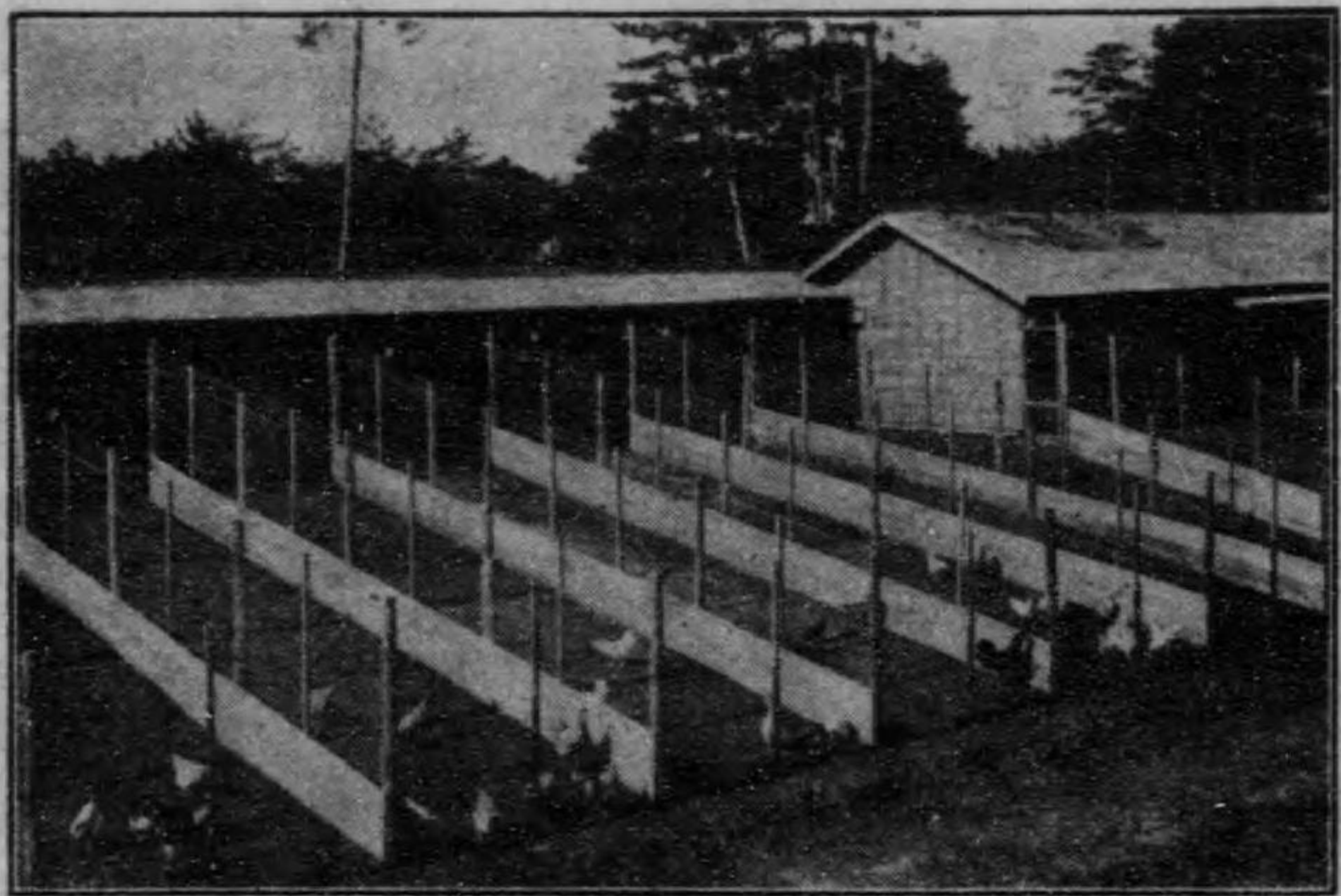
に改良せられ、エアシャー種の産地たり。此の他夷隅、市原、長生、印旛の各郡の如き漸次發達し、改良蕃殖しつゝあり。縣は從來畜牛の改良蕃殖に力を盡し、明治四十年種牛改良の目的を以て、種牡牛四頭を購入し、爾來毎年二頭宛を原産地より輸入し、之を各郡産牛組合其の他の團體に貸付して、之が蕃殖を圖りしが、更に大に之が獎勵の必要を認め、四十四年市原、君津、夷隅、山武、長生の各郡に、畜牛種付所を設け、之と同時に嶺岡畜牛株式會社の事業を縣營に移して、三箇年繼續を以て畜牛に關する種畜場を嶺岡に設置し、倍々斯業の改良發達を圖り、着々効果を擧げつゝあり。現在畜牛の總頭数は三萬三千九十六頭にして、安房郡の一萬四千七百五十五頭を最も多しとし、君津郡の八千三百六十七頭、夷隅郡

豚 本縣に於ける養豚業の端緒は、明治二年印旛郡の人角田某が、高一石には種豚二頭を畜養すべきを全國に合せば、必らず國益を興すに至るべき旨建議したるに、政府之を容れ、其の飼育蕃殖の事を管理せしめたるに由り之を開かれたり。當時某は東京府下に養豚協議社を設け、縣下に種豚を輸入し、熱心之と蕃殖を圖りし以來、農家は各自競ふて飼育し、明治五六年頃は最も盛なりき。然るに其後市價著るしく下落せるが爲め、漸次衰退せしも、千葉郡地方は甘藷の主産地にして、其の廢物を飼料に供し得る便宜あるより、農家は飼養を持續し、山武郡其の他二三地方にても、養豚の利益を認め、蕃殖を圖るに至れり。降つて明治十五六年に及び肉食流行し、頓に豚の需用を増加せしを以て、千葉郡を中心とし、之を飼養するもの各地に起り、且東京其の他に於ける需用は漸次増加せるも、如何せん之を製造して、販路を遠隔の地に求め、又は永く貯藏して不時の用に供するの、却つて利あるを知らず。是に於て臘乾及び鹽藏肉製造所を、千葉郡千葉町に設け、斯業に實驗を有する森田某を聘し、之を製造せしめ、海軍省又は露領浦鹽斯德其の他各地へ輸出せしに、孰れも製品佳良にして、能く貯藏に堪ふるの故を以て、好評を博し、將來頗る有望なりしも、漸く原料の不足を告げ、隨つて其の價格不廉なるより、製造上收支相償はず、遂に二十二年事業を廢するの止むを得ざるに至れり。爾來養豚事業は時に一盛一變ありしが、縣の獎勵と、一般需用者の増加に促され、生産の増加と、種類の改良を圖るの必要を認め、三十五年縣農會に種豚場を設け、原産地より良種を購入して之を飼養し、種豚の供

給及び種類の改良を圖り、之と同時に共進會、又は品評會を開き、汎く改良種の蕃殖を獎勵したるを

以て、本縣の豚は今や全國に卓越の地位を占むるに至れり。而して縣は更に大正二年より、種畜場分場之に關する施設を爲し、一層斯業の改良發達に力を盡しつゝ、現存頭數は一萬五千五百九十二頭にして、東葛飾郡最も多く、二千三百九十一頭を算し、君津郡の二千六十四頭、海上郡の千九百五十四頭、香取郡の千七百六十八頭之に亞ぐ。又其の出産は年々一萬頭内外にして、主産地は千葉郡とす。

家禽 家禽は本縣が最も盛況を呈し、其の生産力は實に全國第一位を占む。明治十九年縣は西洋に於ける養鶏事業が著るしく發達し、農家の副業に甚だ適切なるを認め、之を指導獎勵する所あらんとし、初めて米國から淡色ブラマー、バフコーチンの二種を輸入し、之が繁殖に努



縣立種畜場鶏舎

め、其の種卵を汎く民間に拂下げたり。是れ本縣に於ける洋鶏輸入の嚆矢とす。翌二十年縣は更にミノ

ルカ、アンダシヤン、レグホーン、ブリモウスロックの四種を輸入し、頻りに卵用種の繁殖を圖りしを以て、各地に養鶏熱心家起り、當時一卵十數圓の高價を以て賣買さるゝ等、徒らに好奇心に驅られ、經濟的觀念の如き甚だ乏しく、之が爲め反動を來し、一時沈衰の狀に陥り、數年間洋種の輸入絶え、年々種類の退歩を見るに至れり。然れども民間に於ける養鶏改良思想は、此の時代に養成せられ、流行に銜はずして經濟的に實用鶏を飼育せば、利益する事業なることを認めたるものゝ如し。後、三十六年横濱の商人に依り、レグホーン、ミノルカ其他數種の輸入を、開始したるを動機とし、種禽の輸入商は増加し、其の飼養方法も大に以前と異なり、全く經濟的を主とせり。而して卵肉の需用は倍々斯業の發達を促し、尋で農家の副業として有利有益なるを認められ、三十七年千葉縣家禽協會組織され、三十九年新に家禽改良組合を起して、家禽協會と合同し、縣費の補助を受け、種禽の購入其他改良獎勵の機關と爲り、四十年縣農會に於て種禽場を設け、種禽種卵の配付を爲して飼育せしめ、縣郡町村農會が家禽品評會を開く等縣民協力して、斯業の改良發達に努めたるが、縣は更に大正二年度より縣種畜場分場内に、之が改良發達に關する施設を以てしたり。現在飼養戸數は十四萬二千四百四十五戸、飼養羽數三十二萬五千三百六十七羽、産卵八千八百八十三萬七千三百二十九個にして、此の總價額は二百三十九萬六千三百四圓なりとす。之を既往十年前に比するに、當時飼養戸數の如き正確なる統計を得ず、隨つて之を知るに由なしと雖も、價額に於て百三十五萬三十五圓を増加せり。即ち倍額以上の

増加にして、實に長足の進歩なり。而して縣下に於て斯業の最も盛なるは匝瑳郡にして、千葉、山武、香取、印旛、君津、東葛飾郡の各郡順次に亞ぐ。

家禽原票調査 本縣の家禽飼養は最も盛況を呈し、其の生産力は全國第一なるが、縣は之に關する正確なる計數を得ると同時に、小學兒童をして統計的實習を爲さしむるが爲め、特に家禽原票調査法を定め、小票を兒童に與へ、學校職員及び町村吏員監督の下に。明治四十一年七月十日を期し、縣下一齊に施行し、爾來年々之を施行せるを以て、最も信すべき統計數を得るものとす。

煉乳 縣下の畜牛はホルスタイン及びエアシャー種が、多數にして、農家に於て犢の哺乳したる殘乳は、乳製品原料として頗る豊富なるを以て、明治二十五年以來安房、君津兩郡内に於て、煉乳製造を爲すもの續出せり。然れども技術の不熟練、及び資金の不足なる爲め、動もすれば斯業の興廢常ならざりしが、近來製造方法頗る進歩して市場の聲價を博し、確實に事業を營むを得るに至れり。現在製造所の數十、製造高百六萬五千六十九磅にして、其の價額は十八萬七千六百四十八圓なりとす。之を既往十年前に比すれば、製造戸數は僅かに一戸を増加せしも、其の製造數量と價額とは殆ど十倍の増加を示せり。

水産

本縣は遠く外洋に突出し、東京内灣、房州内外海、夷隅海濱、九十九里濱及び銚子浦等沿海約百里に亘り、其の間に於ける九十九箇町村の地先連續し、且沿岸を洗ふ寒暖の潮流宜しきを得、到る處魚介の發生成育に適し、海藻の種類亦極めて豊富にして、近海并に遠洋の漁業に適するのみならず、内地には印旛、手賀及び長沼を始め、利根、江戸、栗山、小絲、夷隅、一宮、養老、小櫃の諸川四方に流れ、孰れも魚族に富み、鹹水の脂美と淡水の芳味あり。最近統計の示す所に依れば、其の産額は一年九百一萬千五百二圓の産出にして、本縣生産物中第三位に在り。然れども實際は一千萬圓以上に推定せられ、北海道を除くの外、全國中第一位を占む。

漁業者と産額 縣下に於て、漁業に従事する戸數は、

水産



鴨川海岸地曳網

專業兼業共三萬千四百七十二人員十二萬九千八百十六にして、漁船は日本形船一萬四千七百隻西洋形船三十二隻、漁網八百五十三張なり。而して漁獲物の重なるは、鰯、鯉、鮪、秋刀魚、鯖、鯛、鮑、其の他介類、海苔、海藻、川魚等にして、其の價額は魚類四百五十四萬五千八十六圓、介類四十七萬三千二百九十三圓、海獸類二十九萬千六百三十九圓、藻類五十七萬八千七百七十圓なり。又水産製造物は、食料品百三十四萬三千二十一圓、肥料百二萬五千五百七十圓、魚肉其の他雜類十五萬六百十五圓、製鹽三十一萬七千五百七十七圓なりとす。

水産の講習 縣は、夙に水産の改良發達に關し、指導獎勵する所ありしが、明治三十二年、夷隅郡勝浦町に水産試驗場を設け、安房郡那古町に支場を置き、漁撈製造及び養殖に就き改良試驗を施し、之が成績を一般に周知せしめ、三十九年、那古町の支場を廢し、更に同町に水産講習所を開き、斯業に必要な技術を授けて、生徒を養成し、漁撈科の如く石油發動機付の漁船を新造して、改良漁船の操縦に熟達せしめ、之と同時に遠洋漁業の研究を爲さしめたり。又四十四年より、漁業獎勵資金貸付の制を設け、漁船の改良を促して遠海漁業の發展を圖り、更に一面に各郡に水産組合を設け、専ら斯業の改良發達に當らしめ、尙之れが統一を圖るの目的を以て聯合會を組織せしめ、經費を補助して事業の施設に資し、一方移住漁業に従事せしむる楷梯たらしめんが爲め、三十九年朝鮮馬山浦を根據とし、多數の漁業者を移住せしめたり。後、之を有志團體の經營に移せり。而して大正二年に及び、前

記勝浦町に於ける水産試驗場を廢し、那古町の水産講習所に併置し、且本年水産聯合會の組織を改め、之を千葉縣水産會と稱し、縣下の漁業組合及び水産組合を網羅して、有力なる團體と爲し、今後一層官民協力、更に大に斯業の改良發展を圖ること、爲れり。

遠洋漁業の獎勵 縣は遠洋漁業に關する實際的知識技術を與へ、漁撈員を養成すると共に、漁船の改良を促し、其の模範を示さんが爲め、坂東丸及び小鷹丸の如き、石油發動機付漁船を建造したるが、更に漁船の改良を普及せんが爲め、四十二年より漁業獎勵資金貸付規程を設け、年々其の資金を増加して、改良漁船の建造に對する資金供給の道を開けり。即ち石油發動機を据付けたる改良漁船を建造するものに對し、建造費の二分の一の無利子を以て貸與し、一定の期間内に返還せしめ居れり。而して今日まで建造したるは、三十二隻にして、既成船は孰れも相當の漁獲を爲し、良成績を挙げつゝあり。又鴨川水産學校にては四十二年練習船として、石油發動機付改良漁船二山丸を建造したるが、縣は大正三年更に練習兼試驗用として蒸汽機關付の船を建造し、將に大に遠洋漁業の開發獎勵に資する所あらんとす。

本縣に於ける遠洋漁業は、房總沖合遠海大島近海又は太平洋に出漁するものにして、最近の調査に依れば船數三百六十六隻、乗組人員三千四百五十九人にして、價額二十八萬六千三百五十圓を漁獲せり。而して漁獲物中重なるものに就き記する所あるべし。

鯉

本縣は古來鯉の産最も額多く、縣下到る處の海濱に於て之を見ざる事なく、就中九十九里濱に



鯉の漁の實景

於ける鯉漁の如きは甚だ著名なり。一年の漁獲高は、多きは百五六十萬圓少なきも六七十萬圓を下らず。其の豊凶は恰も農家の米作と同じく、漁業の浮沈に至大の關係を有す。漁具は土地に依り、將た時期に依り一定せざるも、概ね地曳、揚繰、小晒、六人網等を使用す。鯉の大漁に際し、一網能く數千圓の漁獲を見、沿岸の白沙は一望悉く鯉の丘陵を築くが如き盛觀を呈し、數量甚だ多きを以て、勢ひ直ちに沙干と爲し、又は壓搾して肥料と爲したりしも、今や時運の進歩に伴ひ、其の製法も漸次改良せられ、或は煮乾に、或は鹽乾又は鹽藏に、或は干鯉の粕に、化製せらるゝもの多きに至れり。煮乾鯉の著名なる産地は、夷隅郡大原、浪花、御宿、豊濱、勝浦の各町村、及び安房郡鴨川、天津の兩町其の他に於て、最近の年額二三十萬圓に上り、又鹽乾、鹽藏等は安房、夷隅兩郡及び九十九里沿岸、并に東京灣等に於け

る鯉の生産地にして、之を製造せざるはなく、其の産額二十萬圓を下らず。干鯉の粕の主産地は九十九里沿岸を最とし、從來東京市深川區に於ける肥料市場の相場を左右するの盛況を見る。然れども近時交通機關の設備と共に、生魚の價格著るしく昇騰せるを以て、一般當業者は肥料に化製するの利益なるを認め、其の製造方減少せり。此の他田作に化製するもの、約十萬圓を超ゆ。要するに鯉は漁獲物中産額最も多しとす。

秋刀魚 秋刀魚は鯉に亞ぎ産額最も多くして、大正元年の如きは八十四萬六千五百十八圓の漁獲を見たり。東京内灣の一部及び九十九里濱を除くの外、概ね來游を見ざることなく、就中夷隅郡の一部及び、安房東海岸七浦方面を以て主産地とす。漁期は十、十一、十二の三箇月に過ぎずと雖も、其の豊凶は鯉と同じく漁業者の經濟に、影響を及ぼすこと甚だ大なり。漁具は秋刀魚網及び流し網等にして、漁獲物は延繩釣り餌料、及び一部生賣と爲すの外、悉く鹽藏として販賣す。

鯉と鮪 鯉は年々少なくも五十萬圓、鮪は二十萬圓内外の漁獲あり。漁場は安房、夷隅兩郡近海及び銚子沖合、并に伊豆相模沿海が主要なるものにして、種類は鯉、小鯉、鮪、さわだ、めばち、びんなか、かじき等なりとす。漁具は一本釣、延繩、流し網及び鯉鮪網なり。鮪は生魚の儘、鯉は銚子鴨川、船形地方にては、氷漬として之を京濱地方へ搬出し、其の他は生節又は鯉節に製造す。



節製の實況

鯉節 著名なる産地は、海上銚子町、飯岡町、夷隅郡大原町、及び安房郡天津町、鴨川町、太海村等にして、其の品質は従来静岡縣産に比し、少々遜色あるを免れざりしを以て、縣は夙に此に見る所あり。豫て設置されたる水産試験場の事業として、關係各地に於て短期講習、又は實地練習會を開き、當業者をして之に關する技術を練習せしむると同時に、大に品質の改良に努めたるを以て、着々効果を挙げ、今や一般に品質を高め、市場に於ける聲價の如きは、頗る好況を呈するに至れり。其の産額は年柄に依り多少あるも、大正元年は二十一萬八千七百七十五圓を算せり。

鯛 鯛は魚族中、最も貴重なる種類に屬し、古來鯉（小位）を以て川魚の王とし、鯛（大位）を以て海魚の王と唱へ、冠婚其の他の祝典に缺くべ

からざる佳魚なりとす。其の種類は鯛、黒鯛の二種にして、縣下の沿海到る處に栖遊せざるなく、漁具は手釣、延繩及び桂網を主とす。桂網は君津郡大貫、竹岡、金谷の各村に於て、用ふる特種の漁具にして、漁況頗る奇觀を呈す。産額は年々二十萬圓を超ゆ。

鮑 縣下に於て産する鮑は、またかひ、めかひ、くろかひの三種、并にところふし等にして、東京灣及び九十九里濱方面の外、搗布、荒布等の繁茂せる沿岸の岩礁に栖息し、殊に夷隅郡大原町沖合、機械根と稱する鮑礁は、廣さ約三里に亘り、明治十八年發見以來、多額の生産を見、随つて清國輸出重要水産物の一たる明鮑も、頗る佳良なるものを出し、今や名聲漸く高く、需用劇増したる結果、鮮生の儘輸送され、製造高は年々減少せり、其の採捕は、大概潜水器を以てす。年柄に依り産額に多少あるも、大正元年は、約十四萬四千九百二十圓を見たり。

鯖、鱒、鯡、鰯 縣下の海岸に於て之が栖遊を見ざるなく、就中鯖及び鱒は、房州沿海を主要なる漁場とし概ね釣獲す。其の小なるものは、沿岸各々地曳網を以て漁獲す。生魚の外は鹽漬又は開乾と爲し、京濱地方に輸出す。又鯡及び鰯は刺網、延繩又は手繰網を以て漁獲し、生魚の儘販賣す。年々の産額は、鯖二十萬圓、鱒二十二萬圓、鯡二十萬圓、鰯六萬五千圓内外なりとす。

蛤、蛸、馬珂 産地は東京内灣沿岸一帯にして、殊に東葛飾郡浦安町、船橋町、千葉郡千葉町寒川、市原郡八幡町、五井町、君津郡金田村畔州、并に木更津町地先の如きは發育最も著るしく、又九十九

里濱にも少なからず。漁具は貝捲を主とす。而して概ね拔身として、東京若くて産地附近に販賣するも、八幡、船橋及び浦安町地方に於ては之を佃煮と爲し、東京其他各地に販賣し、其の殻は貝灰に製造す。是等介類の産出は年額少なくとも三十萬圓を越ゆ。

牡蠣 はまがき、いたほかきの二種あるも、はまがきを以て主とす。其の生産は東京内灣沿岸、及び夷隅、安房兩郡、并に海上郡銚子町沿岸の岩石に、天然附着するを見るも、人工を以て養蠣を施したるは、明治十六年市原郡八幡五所金杉地方、及び東葛飾郡南行總村地方に試験地を設けたるを嚆矢とす。當時蠣殻其の他の介殻を海中に撒布し、蠣苗の附着如何を試験するも、成績の見るべきものなく、二十一年東葛飾郡浦安町、及び般橋町地先等に、養蠣試験場を設け、築立法を行ひしも充分なる成功を見ず。三十二年本縣水産試験場の設立と共に、養蠣試験として、更に東葛飾郡浦安町、市原郡千種村、君津郡木更津町及び、富津町の各地先に於て、築立法及び瓦附法を行ひ、三十七年より東葛飾郡、浦安町、船橋町、君津郡富津町、猶葉村の地先に於ける牡蠣養殖試験場内に於て、一般の漁業を禁止し、爾來之が試験に努めたる結果、船橋、浦安、檜葉、木更津等の養殖成績佳良なるを得、以て今日に至る。産額は大正元年の如き六千圓内外なりしも、既往數年間の平均に依れば、一年少なくとも十二萬圓を下らず。殊に近時一般に著るしく需用を増加しつつあり。

鮭、鱒 生産地は利根川のみにして其の産額多からず鮭は一萬圓、鱒は二千圓内外なるも京濱地方

に於て走りと稱せらるゝは本縣の産を以て主とす。漁具は刺網、曳網及び雙網にして、總て生魚の儘販出す。漁獲高は年を逐ふて増加するものゝ如し。

鯉、鰻、鱈 縣下には河川湖沼多く、利根江戸の二大川は縣の東北西を包流し、印旛沼は周圍十二里、手賀沼は五里餘の廣き淡水面あるを以て、到る處鯉鰻鱈の栖息を見ざるなく、殊に利根川産の鯉は、潑瀾として滋味に富めるより其の名高く、鰻も形體肉味は他の地方産に比し頗る好評あり。而して銚子の下り物及び手賀印旛沼の所謂沼物たるさぢあらの上物に至りては、東京市場第一の優品を以て賞味せられ價格亦高し。漁具は曳網、刺網及び筒等なり。鱈は是亦甚だ有望にして東京市場に輸送され好評を博す。産額は年々鯉三萬七千圓、鰻十萬圓、鱈五萬四千圓内外にして倍々増加の傾向あり。

海苔 本縣に於ける海苔採取業の起源は、今を距ること凡そ八十餘年前、即ち文政年中武藏國大森浦の某と云へるもの、小絲川口に於て、君津郡青堀村大堀人見の二部落人民に築立法を傳授したるに由る。天保年間に至り稍進歩せる跡なきに非ざりしも、明治維新後二十年頃まで未だ完全なる進歩を見ること能はざりき。然れども本縣水産試験場が設置せらるゝや、木更津八幡船橋等の海面に於て養殖試験を行ひ、四十年以來農商務省水産講習所に於て市原郡五井町海面に試験地を置き、水産試験場と共に斯業に關する試験を遂げ、當業者を指導奨励したる結果地元漁業組合をして海面に築立を始めしめ、各地と共に現時の如く發達を見るに至れり。本縣に於ける海苔の主産地は東葛飾郡浦安町、船

橋町、市原郡五井町、千種村、君津郡青堀村、金田村、木更津町等にして、其の製品は概ね東京市場に輸出せられ、年額將に百萬圓を超えんとし前途頗る有望なる事業なり。

浦安海苔 東葛飾浦安町に於ける海苔業は、明治十九年頃の創始に係る。初め町内一二の篤志家が漢立を爲し、海苔の着生を試験せしに全然不結果に終れり。然れども毫も屈する所なく年々漢立を強行し、遂に三十年に及び始めて好果を收むるを得たり。是に於て着々事業を進め今や東京本場と稱する海苔が多く産出し、其の品質の如き亦頗る優良なるより、到る處名聲を博し同地方の重要物産と爲れり。

海藻 本縣は東京内灣及び九十九里濱を除けば幾多の岩礁波間に隠見し、且黒潮の流域に浴するを以て頗る海藻に富む。種類は天草、搗布、鶏冠海苔、ほぐろ等にして、安房郡海岸并に夷隅郡沿岸に最も多し。其の採取法は積み取り并に潜水器を使用するに在り。年々の産額は五十七萬八千七百七十七圓にして需用倍増加す。又搗布實に製造の原料なり。

水産試験場 明治三十二年夷隅郡勝浦町に設置せられ、専ら水産に關する漁撈製造養殖の試験を行ふと同時に各地に練習部を置き、當業者を指導し啓發して製造技能の習熟を圖り、且海苔業の養殖奨励に力を盡し、本縣水産業上非常に貢獻する所ありしが、大正二年行政整理の結果之を廢止せり。

水産講習所 水産講習所は初め水産試験場支場として、安房郡那古町に設置せられしが、明治三十九年支場を廢して新に水産講習所とせり。水産に關する技能并に簡易なる理學の講習を爲すを以て目的



縣立水産講習所生徒徒製干鯉の實況

とし、本科研究科及び遠洋漁業科を置けり。本科生の修業年限は二箇年にして其の定員を三十名とし、講習科は本科

卒業生にして更

に既修の學業を

攻究せんとする

者の爲に設け、

其の修業年限を

一箇年とし、又

遠洋漁業科は遠

洋奨勵法に依り

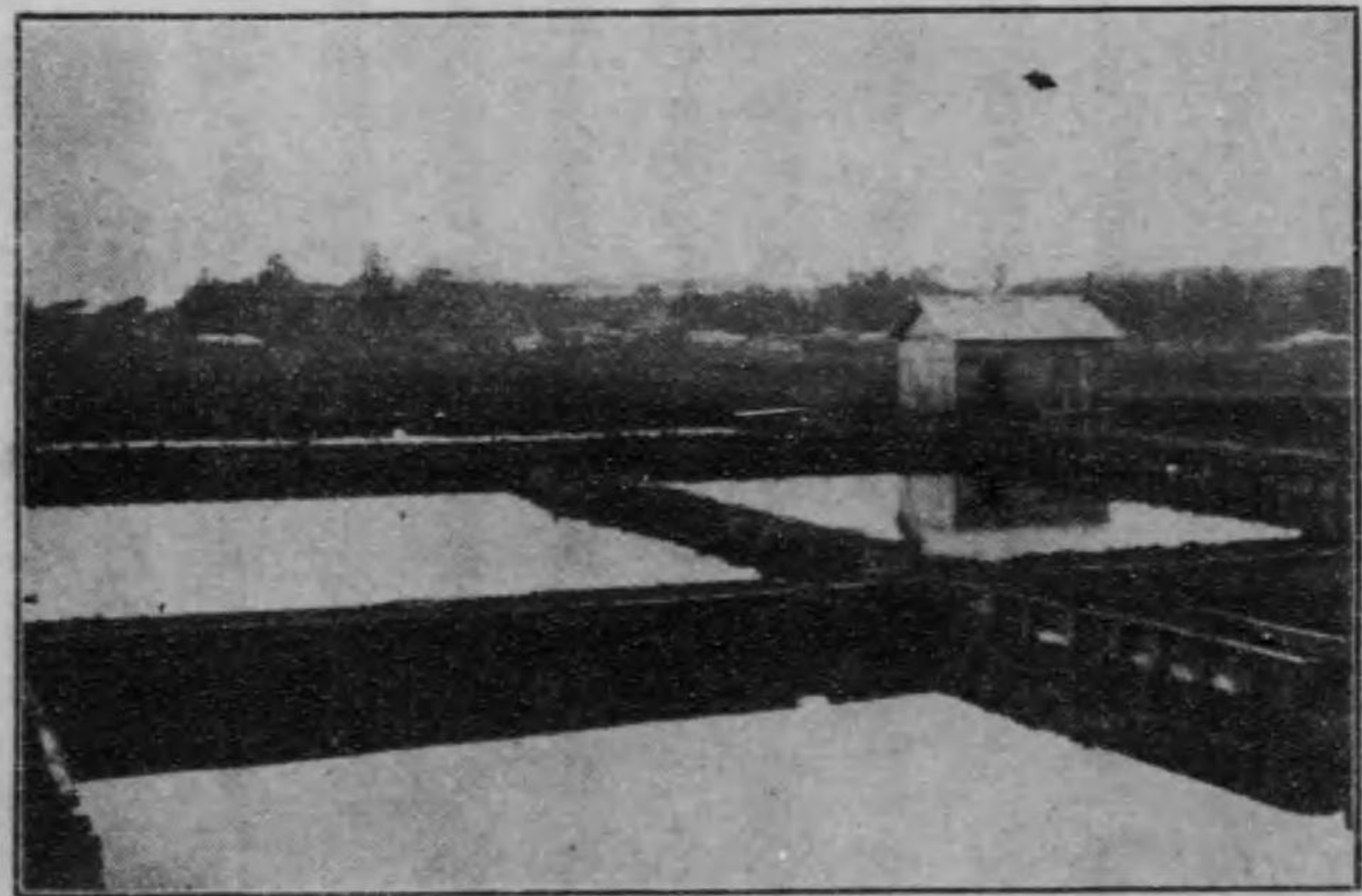
漁獵員を養成す

るを目的とし、

其の修業年限を

二箇年若くは三箇年とす。農商務省は同所遠洋漁業科卒業

生には試験を用ゐず、丙種漁獵者の免狀を受くべき資格を



縣立養魚場

るものと認定せられたり。講習科生徒の練習船は従来日本帆船富士號あるに過ぎざりしが、縣は四十三年ケッチ型石油發動機附二十一噸の練習船一隻を建造し、之を小慶丸と命名し、爾來生徒の漁撈練習に供せしが、更に大正三年規模大なる蒸汽機關付練習船を建造することゝ爲れり。

養魚場 本縣にては縣内に散在する幾多の池沼を利用して、鯉魚を放養せしめ、農家副業の一助と爲さんとし、大正元年千葉郡千葉町に養魚場を設け、鯉兒の繁殖を圖り、之を翌二年より毎年二十萬尾宛、民間に無償配布を爲しつゝあり。

千葉縣水産會 本縣水産組合聯合會は、明治十四年以來幾多の變遷を経て、三十五年に至り、水産組合規則を發布せらるゝや、該規則に基き之を設置し、縣は三十六年以降、年々補助金を交付し、同會の事業を贊助し來りしが、大正三年三月十五日之を解散し、千葉縣水産會を組織せり。

工業

本縣は由來農産及び水産に富み、工業の如き未だ振はず、殆ど見るべきものなきが如しと雖も、工産物の生産總價額は、二千三十八萬千二百四十一圓の多きに達し、實に農産物の次位に在り。大正元年末調査の統計に基き、其の種類中生産價額の重なるものを擧ぐれば、醬油の九百四十四萬千百十圓、酒類の三百九十五萬八千六百六十六圓、藁製品の八十萬九千八百二十六圓、澱粉の五十九萬五百九圓、肥料の五十萬九千九百六十四圓、油及び油粕の二十四萬五千二百四十四圓、酢及び味噌の二十二萬七千六百九十八圓、煉瓦及び瓦の二十二萬五千三百七十五圓、疊表、莫産類の四萬三百六十二圓、度量衡器製作の二萬三千八百五圓等順次之に亞ぎ、此の他工産雜類の生産價額は三百六十五萬七千二百五圓なり。而して海外に輸出せらるゝは、醬油、油類、生絲、經木真田、竹細工品及び蔬菜乾燥の内、切干大根の類なり。

工場と作業者 工産物に關する工場は、百四十二箇所にして、直接作業に従事する者は、男二千三百九人女二千七百九十六人なり。又労働人夫は男四百三十九人女六十四人なり。之を明治四十一年に比すれば、工場は二十六、直接作業者は男四百九十一人、女千九百十三人を増加し、労働人夫は男二百二人女三人を減少せり。平均一日の就業は十時間にして、一箇年間の製造價額は、八百八萬六千

銚子醬油釀造所



醬油壓搾所

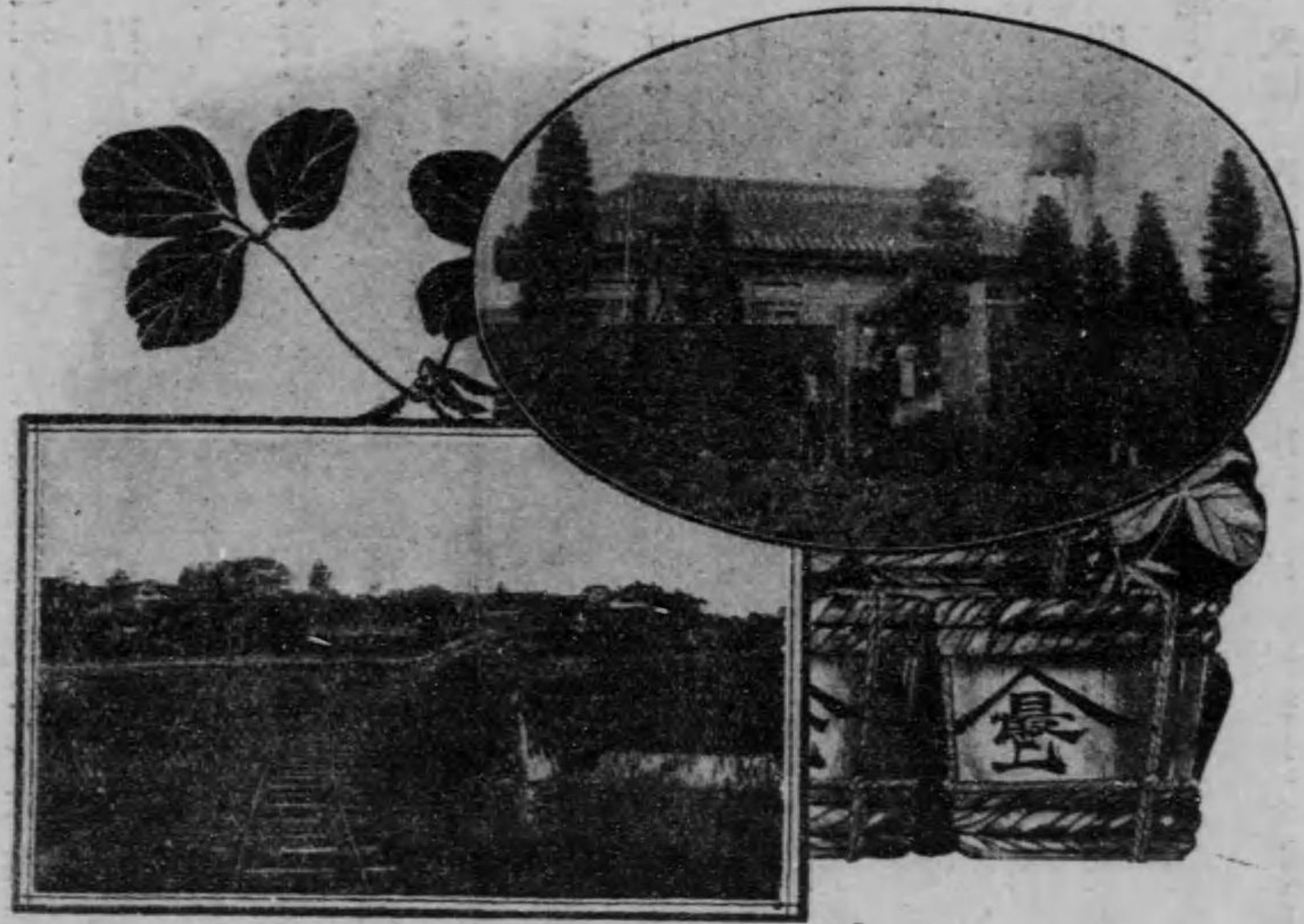
五十九圓を以て算せらる。

醬油 醬油は本縣の一大特産にして、廣く世に需用せられ、其の品質の優良にして風味の佳美なる殆ど比なし。最近の調査に依れば、縣下に於ける釀造場は、五百三十七、生産數量三千五萬三千百十三石にして、其の價額は九百四十四萬千百一十一圓に達す。之を既往十年前に比すれば、釀造數は五十九箇所を減少せしも、數量に於て十二萬六千八百四石を、價額に於て五十九萬八千四百四十二圓を増加せり。而して主産地は東葛飾郡野田町、海上郡銚子町、香取郡佐原町にして、其の他縣下各地に於て釀造するもの夥しく、需用亦年を逐ふて、倍々増加するに依り、生産價額が一千萬圓に達するも遠きにあらざるべし。

醬油の沿革 醬油が本縣に於ける起原は、事蹟區々にして、正確に之を知ること能はず。然れども今を去ること約三百年前、即ち元

和二年の頃、攝津西の宮の酒類釀造家にして、海産物商を兼ねる眞宜某なるもの、海上郡銚子町に來り、田中家の祖先に、醬油の釀造方を傳授し、之れが營業を開始したるに由來するが如し。正保二年に至り、濱口家の祖先が、漁業の目的を以て、紀伊國有田郡廣村より銚子町に移住し來り、一井を鑿ち水質を檢したるに頗る優良にして、醬油の釀造に適するを認めたるを以て、營業を開始し、後、更に岩崎家の先考が、紀伊國より移住し來り、是れ亦醬油の釀造を業とし、田中、濱口、岩崎三家共に相携へて、斯業の發展に力を盡し、遂に今日の基礎を立てたりと。又、東葛飾郡野田町に於ける起原は、寶曆三年飯田市郎兵衛なるもの、同地に於て醬油を釀造せるを嚆矢とし、尙ほ又、香取郡佐原町に於ける起原は、天保三年加瀬家の先老が創始せりと傳へらる。爾來縣下各地に於て、之を釀造するもの續出し、當業者亦熱心に品質の改良を圖れるを以て、大に聲價を廣め、管内は勿論、東京其の他各地に於て需用するもの倍々増加し、著るしく販路を擴張したるが、野田銚子の醬油の如きは、徳川幕府より最上醬油の名を冠せられたり。降りて明治維新後、泰西文物の輸入に伴ひ、野田銚子の當業者は、新進の學理を應用して釀造の方法を改良し、従前の工場を刷新し、専ら品質の改善を圖ると共に、釀造に關する費用を節し、一層廉價に販賣に努めたれば、大に内外の信用を博し、東京を最大需要地とし、内地は勿論、北海道臺灣より朝鮮及び支那に至るまで販出せられ、更に販路を海外に擴張し、米國、布哇、英國、濠洲、浦鹽斯德地方等に輸出せられ、今日の盛況を見るに至れるが、將來倍

野田醬油製造試驗所



野田醬油製造所

々需用擴大し、生産増加せんとするの實況なり。而して本縣に於て醸造せらるる、醬油が、内外の博覽會又は共進會開會の際出陳し、品質優良の故を以て、諸種の賞與を受けたるもの甚だ多く、殆ど枚舉に遑わらず。

酒 本縣に於ける酒類醸造の起原は、是れ亦詳かに知るを得ず。惟ふに徳川幕府時代、營業者の酒造石高を制限せんが爲め、所謂造石株税なるものを施行されたる際は、斯業甚だ振はざりき。然れども明治維新後此の制限を解き、更に酒造税則を發布し、廣く營業の自由を與へしを以て、發展の端緒を啓き、香取、印旛、東葛飾、長生、君津其の他各郡に於て、醸造家勃興するに至り、就中香取郡佐

原町地方は、最も舊き沿革を有し、古來關東灘の稱あり。現在醸造場は專業二百五十九箇所兼業三百六十箇所にして、其の生産數量及び價格は、清酒六萬千七百八十二石二百五十八萬九千七百三十二圓、濁酒三千二百二十石十一萬三千四百九十六圓、燒酎五萬百九十九石三十二萬四千二百九圓、白酒六百二十七石四萬四千六百十七圓の多きに達せり。之を既往十年前に比すれば醸造場は二百一十一箇所を減少し、又濁酒も數量價額共に減少せるも、其の他の酒類は著るしく増加し、殆ど倍額を見るに至れり。是れ全く營業者が、明治三十三年以來、各郡に酒造組合を設け、三十八年聯合會を置き、時々酒造に關する講習會又は品評會を催ふし、大に品質を改良すると同時に、營業費を節し、以て低廉に多く販賣せんとしたるに外ならず。

味淋 味淋は之を傳記に徴するに、舶來密林酒に倣ひ醸造せしより、此の名稱あるもの、如し。本縣に於ける醸造の起原は、今を去ること約百五十年前、明和三年東葛飾郡流山町堀切家の祖先が、始めて之を醸造し、近在并に東京に販賣せるを嚆矢とす。尋で天明二年に及び、同町秋元家の祖先亦之を醸造せり。兩家は常に相往來して、互に品質の改良に苦心したる結果、遂に優良なるものを醸造するを得、流山味淋の名聲は全國に噴々たるに至れり。其の内外の博覽會又は共進會品評會等に出品するや、幾多の賞與を得て、名聲を博したるは枚舉に遑わらず。爾來香取郡佐原町に於ても之を醸造し、是れ亦品質優良なるを以て治ねく世に需用せられ、佐原味淋の名聲高し。現在醸造場は專業七兼業六十三箇



況實の搬運



況實の造製

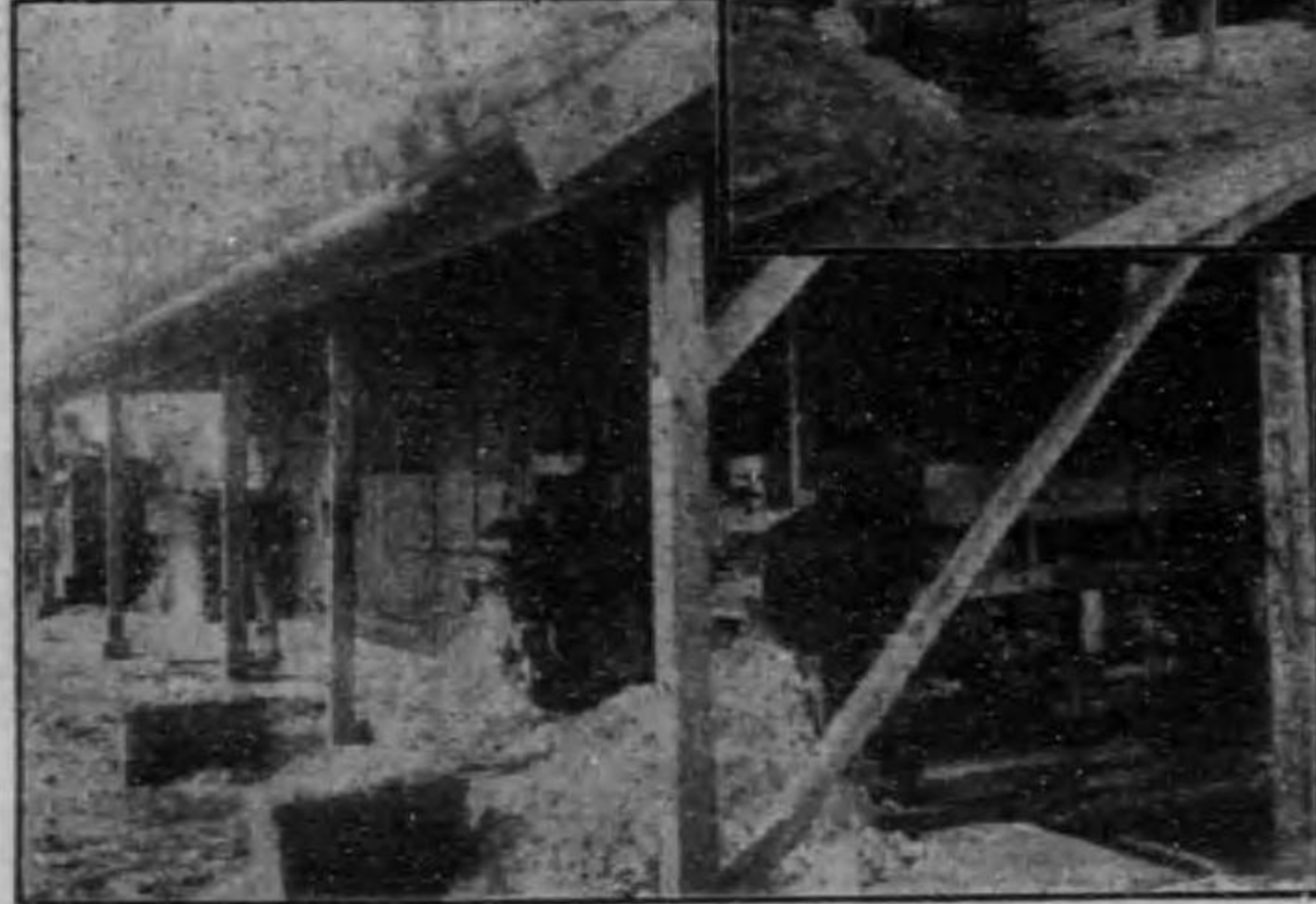
所にして、其の數量及び價額は一萬二千七百十三石、八十八萬十二圓なり。就中最も多きは流山町の八千九百六十三石六十三萬七千四百十圓にして、佐原町の三千二百十石二十一萬九千八百九十五圓之に亞ぐ。蕨及び叭 蕨及び叭の製造は、元來農家の婦女子の内職にして、製作せるものなるが、日清日露の戰役に際し、軍需品として之を數多買

上げ使用せられし以來、肥料及び諸工業の發展に伴ひ、需用倍々増加するに至り、今や蕨十九萬五千三百三十三圓、叭三十八萬七千七百六十二圓、合計五十八萬三千九十五圓を産出し、農家副業中重要なるものと爲れり。之に従事するは長生郡最も多く、年額四十萬圓以上の生産あり。夷隅市原の二郡之に亞ぐ。

肥料製造 海上郡銚子町より九十九里濱及び夷隅郡海岸を経て、安房郡に至る太平洋沿岸一帯は、乾鰯搾粕の産地として、古來其の名高し。之が産額は鰯漁の豊凶に依り一定せざるも、最近の平均年額は少なくとも



澱粉製造場



四十萬圓を下らず。近年著るしく品質を改良し、需用一層増加しつゝ、あり又。菜種油粕及び胡麻油粕等に依り製造せらるる肥料も、六萬圓内外の生産を見る。

製油業 本縣に於ける製油業は、概ね農家の副業として經營せらる。製油戸數二百二十八あり。製品の種類は菜種、胡麻、落花及び桐油等に

して、生産年額十七萬圓を超ゆ。

澱粉 澱粉は主として絹織物の機糊、又は菓子類、蒲鉾或は齒磨粉等に使用せられ、種類は甘藷澱粉、馬鈴薯澱粉、寒晒粉あり。之を縣の特産物たる醤油、味淋、清酒等の各醸造工業品に比し、遙かに一等を輸するも近時長足の進歩を爲し、其の産額は本邦第一に在るのみならず、今や東京大阪京都の三府、始め福井群馬栃木三重愛知の各縣、其の他に於て需用せられ、倍々發達の機運に向ひつゝあり。現在製造戸數は専門二百四十九兼業百八にして、其の生産年額は九百五十五

萬二千三百斤、五十九萬五百九圓の多きに達せり。

澱粉製造の起源 澱粉製造の起源は、今より約八十年前、千葉郡千葉町千葉寺區五田保花澤紋十なるもの、之を製造したるに始まる。天保七年下野國の人中里某なるもの、此の地に來り、山葵おろしを用ひ、手摺にて甘藷より澱粉を製造する方法を教へらる。紋十は之に依りて手つから製造すると同時に、隣人に其の方法を傳授し、遂に現在の如く、斯業發達の基礎を開きたり。本縣澱粉業の今日あるは、全く紋十の遺業に由るものとす。紋十は資性謹直にして、夙に殖産興業の發達に志し、殊に澱粉製造に就き最も功績あり。賞勳局は明治四十三年十月、紋十の孫に對し、銀盃一個を下賜し、祖父の功績を追賞せられたり。

澱粉の主産地 縣下に於ける澱粉の主産地は、千葉郡を第一とし、海上郡之に亞ぐ。千葉郡の主産地は蘇我町及び千葉町の一部にして、蘇我町は全町悉く澱粉を製造し、到る處澱粉の天日乾燥を見ざるはなく、又海上郡の産地は、銚子町、西銚子町并に利根川沿岸、及び犬吠岬附近にして、殊に銚子町より犬吠岬に至る里餘の沿道一帯は、悉く甘藷畑ならざるなく、其の中に澱粉工場の點々として存在するを見るべし。

澱粉改良同業組合 本縣澱粉の主腦たる千葉郡に在りては、千葉郡甘藷馬鈴薯澱粉改良同業組合を設け、千葉縣に於ける製造者販賣者、及び仲買業者を以て組織せり。同業組合の業務は、澱粉製造技

術を督勵し、製造品の検査を行ひ荷造を一定し、又は品評會を開き、營業必要ある事項を調査し、組合員の製造高及び價額を調査し、統計を正確にする等に在り。而して組合は澱粉の製造期に際し臨時検査員を各製造家に派し、製品の品質色澤及び乾燥等を検査分別し、等級を製して規定の検査を貼付し、之に依つて始めて製品を賣買することとし、専ら斯業の改良發達を圖りつゝあり。

上總木綿 今を去ること約百餘年前、即ち文化五年頃、長生郡茂原町の人々が、其の地方に於て産出する綿織物が、地質堅牢にして、實用に適するを認め、之を各地へ搬出したるに、一般に歡迎せられ、爾來上總木綿として、大に名聲を博するに至れり。降つて安政五年、同郡關村の人が上州地方の機業を視察し、始めて高機と稱する手織機を模造し、之が使用を附近の者に授け、傍ら工女の養成に努めたる等、傍ら斯業の改良普及を圖れるを以て、著るしく發達し、今や山武郡其の他に於ても之に従事するもの増加し、需用亦頗る多し。

銚子縮 海上郡銚子町より産出せらる。其の起源は、之を知るに由なしと雖も、古來銚子縮の名聲甚だ高く、全國に需用せらるゝもの頗る夥し。近時同地の機業家は、動もすれば斯業が時世に後れて繁昌せざるを憂ひ、明治四十三年二月、産業組合法に依り、有限責任銚子機業信用販賣組合を設けて粗製濫造の業を防ぎ、之と同時に染色に化學を應用し、且機械に利器を求め、營業費を節し、尙ほ進みて販路を擴張するに努む。

此の他幾多の工産物あり。年額五萬圓以上を産出するは、酒、醬油樽の四十一萬五千五百十五圓を第一とし、建具、和傘、干鰯鮓、襦袢、襦衣類、脚絆股引、洋服、洋服附屬品、下駄、足袋、菓子、麵類、指物類、箆籠等なりとす。而して戸障子板戸は、山武安房夷隅の三所より多く産出せられ、殊に山武郡に於て製せらるゝ上總戸は、京濱及び近縣へ販出し、近來朝鮮滿洲地方へ輸出せらる。又和傘、太根切干、竹細工、魚介罐詰、佃煮、揚子、團扇骨子の如きは、本縣の特産物とも謂ふべく、需用年々増加し、隨つて産額著るしく増加するに至れり。

成田物産陳列館 成田物産陳列館は、印旛郡成田町に在り。明治四十二年工事費二萬五千圓を以て新築し、縣は之に對し一萬圓を補助せり。其の陳列品は、曩に千葉郡千葉町に設けられたる千葉縣物産陳列館の諸品、及び本縣各種産物の外、更に内外の物産を蒐集して陳列す。同町は全國に三千の講社六百萬の信徒を有する成田山不動尊の安置せらるゝ地なるを以て、同山に參詣する者は、必ず先づ之を縦覽せざるなく、地方の物産を紹介するに頗る有益なり。

商業

本縣は地勢の關係上、古來各所に幾多の小市街が散在して、小區域の商權を分領せり。維新以前の如き、列藩の居城下は全く各所の商業中心點たる狀を呈せるを以て、殆ど見るべき大商業地なし。況んや利根江戸兩川の水運及び房總沿岸に於ける海運の便利あるのみならず、今日鐵道四方に開通し、直接に東京其の他より商品を仕入れ、之を各小市街に分布するに於ておや。若し夫れ商業地を求むれば、下總に於て佐原、銚子、小見川、八日市場、旭、千葉、野田、佐倉、松戸、船橋の各町、上總に於て木更津、東金、横芝、松尾、成東、茂原、廳南、八幡、五井、姊崎、大多喜、大原、久留置、勝浦、湊の各町、安房に於て北條、館山、鴨川、加知山の各町なり。而して商業に従事する戸數及び人員は、專業二萬四千二百二十戸九萬七千七百五十四人、兼業三萬四百七十八戸十萬九千六百三十四人にして、合計五萬四千七百四戸二十萬七千三百八十八人なり。之を現住戸數及び人口に比すれば戸數は四分の一弱、人口は七分の一強に當る。

輸出入 縣下に於て商品として輸出し、又は輸入せらるゝものは幾何なるや、未だ正確に之を知るを得ずと雖も、船舶若くは鐵道に積載せる貨物の數量を概算すれば、少くも六七千萬圓なるべし。而して縣外へ輸出する物品中、重なるものは醬油、清酒、米、麥、蔬菜、魚類、蠶絲、澱粉、落花生、甘藷其の他なり。

商業

銀行會社 銀行は千葉縣農工銀行を始め、總計五十四箇所あり。資本金總額八百十八萬八千七百五十圓、拂込額四百四萬二千四百圓にして、積立金は百四十八萬六千八百八十九圓なりとす。其の行名及び資本金并に拂込額は左の如し。又會社は總計百十九會社あり。資本金額六百三十一萬六千九百二十四圓拂込額四百十萬千二百圓にして、積立金三十六萬四千四百四十圓なり。之を細別すれば農牧業三、水産業四、工業二十九、商業の五十五、水陸運輸業十七、其の他一なり。

銀行名	設立年月	資本金	資本金拂込高
千葉縣農工銀行	明治三十一年二月	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
安房銀行	同 二十九年三月	三〇〇、〇〇〇	一一〇、〇〇〇
松戸農商銀行	同 二十九年五月	三〇〇、〇〇〇	一一二、五〇〇
北總銀行	同 三十一年二月	二〇〇、〇〇〇	八〇〇、〇〇〇
五井銀行	同 三十三年一月	一〇〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇
古川銀行	同 三十三年四月	六〇、〇〇〇	一五、〇〇〇
野田商誘銀行	同 三十三年五月	二五〇、〇〇〇	六二、五〇〇
三原銀行	同 三十三年五月	五〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇
南總銀行	同 三十三年八月	一五〇、〇〇〇	八二、五〇〇
安房商業銀行	同 三十三年七月	一〇〇、〇〇〇	二五、〇〇〇
久留里銀行	同 三十二年九月	二五〇、〇〇〇	一三七、五〇〇
佐貫銀行	同 十九年五月	三〇〇、〇〇〇	一八〇、〇〇〇

商業

君津銀行	明治三十一年十二月	二三〇、〇〇〇	一〇四、六〇〇
佐原興業銀行	同 三十三年十月	五〇〇、〇〇〇	一二五、〇〇〇
椎名銀行	同 三十三年十二月	五〇、〇〇〇	二五、〇〇〇
木更津銀行	同 二十九年十月	六〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇
東金銀行	同 十四年九月	五〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇
瀧澤銀行	同 二十二年十一月	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇
鶴舞銀行	同 二十二年六月	一一〇、〇〇〇	八四、〇〇〇
夷隅銀行	同 二十二年五月	一五〇、〇〇〇	一一二、五〇〇
茂原商業銀行	同 二十九年七月	二〇〇、〇〇〇	一三一、〇〇〇
花房銀行	同 二十九年七月	六〇、〇〇〇	四一、〇〇〇
山武銀行	同 二十九年十一月	五〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇
多古銀行	同 三十年二月	二〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇
九十九里商業銀行	同 三十年五月	一六〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇
第九十八銀行	同 三十年五月	五〇〇、〇〇〇	二二三、〇〇〇
成東銀行	同 三十年十月	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇
一宮商業銀行	同 三十一年一月	三〇〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇
小見川農商銀行	同 三十一年二月	二〇〇、〇〇〇	五六、〇〇〇
匝瑳銀行	同 三十一年五月	八〇、〇〇〇	四九、〇〇〇
船橋商業銀行	同 三十一年五月	一五〇、〇〇〇	七五、〇〇〇

千葉縣產業要覽終

商業

大野銀行	明治三十三年一月	一〇〇,〇〇〇	五〇,〇〇〇
山口銀行	同三十三年一月	三,七五〇	三,七五〇
富銀銀行	同三十一年五月	二〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇
勝浦銀行	同三十三年七月	二五,〇〇〇	二五,〇〇〇

和田銀行	明治三十一年九月	五〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇
長南商業銀行	同三十一年十一月	一〇〇,〇〇〇	四七,五〇〇
銚子銀行	同三十二年一月	一〇〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇
片貝銀行	同三十二年七月	三〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇
松尾銀行	同三十二年八月	二〇〇,〇〇〇	九七,〇〇〇
澁實業銀行	同三十二年十月	一五〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇
流山銀行	同三十二年五月	五〇,〇〇〇	五〇,〇〇〇
三協銀行	同三十一年五月	三〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
成田銀行	同二十九年一月	一五〇,〇〇〇	五〇,〇〇〇
中山協和銀行	同二十八年十一月	一〇〇,〇〇〇	四五,〇〇〇
小笠原銀行	同三十三年七月	一五〇,〇〇〇	二五,〇〇〇
千葉引銀行	同三十三年五月	一一〇,〇〇〇	五四,〇〇〇
日吉銀行	同三十三年四月	一〇〇,〇〇〇	六二,〇〇〇
帆立銀行	同三十三年六月	六〇,〇〇〇	三一,二〇〇
神崎銀行	同三十三年八月	一〇〇,〇〇〇	二五,〇〇〇
南總明治銀行	同三十三年十月	五〇,〇〇〇	二二,五〇〇
馬來田銀行	同三十三年十一月	一五〇,〇〇〇	七五,〇〇〇
安房實業銀行	同三十三年十月	二五〇,〇〇〇	七五,〇〇〇
勝浦商業銀行	同三十三年二月	二〇〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇

大正三年六月十二日印刷
大正三年六月十六日發行

編纂者 千葉縣

千葉縣千葉郡千葉町五百貳拾貳番地

發行兼印刷者

能勢鼎三



印刷所

千葉縣千葉郡千葉町五百四拾八番地
多田屋印刷工場 千葉活版所

25
7/9/18

終